

第 1 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録  
( 第 2 号 )



1 平成9年3月10日（月曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 辻 田 実  
3番 三 上 英 男  
5番 忍 足 利 彦  
7番 斉 藤 実  
9番 島 田 保  
11番 秋 山 光 章  
13番 脇 田 安 保  
15番 山 崎 雅 己  
17番 岩 村 勝 弘  
19番 川 名 正 二  
21番 山 中 金治郎  
23番 石 井 昌 治  
25番 飯 田 義 男

2番 本 橋 亮 一  
4番 小 幡 一 宏  
6番 鈴 木 順 子  
8番 増 田 基 彦  
10番 宮 沢 治 海  
12番 植 木 馨  
14番 永 井 龍 平  
16番 鈴 木 忠 夫  
18番 日 下 君 敏  
20番 神 田 守 隆  
22番 榎 本 春 光  
24番 福 原 勤

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 庄 司 厚  
収 入 役 永 野 修  
総 務 部 長 鈴 木 完 二  
経 済 環 境 部 長 小 沼 晃  
水 道 課 長 谷 貝 実

助 役 小 幡 清 之  
企 画 部 長 寺 嶋 清  
市 民 福 祉 部 長 渡 辺 富 雄  
建 設 部 長 鈴 木 信 一  
教 育 委 員 会 長 高 橋 博 夫

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵 藤 恭 一  
書 記 四ノ宮 朗  
書 記 鈴 木 達 也

事 務 局 長 補 佐 鈴 木 哲  
書 記 島 本 一 樹  
書 記 松 浮 郁 夏

1 議事日程（第2号）

平成9年3月10日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（山中金治郎君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

#### 行政一般通告質問

◎議長（山中金治郎君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の3月5日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序は、お手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあらうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

6番議員鈴木順子さん。御登壇願います。

（6番議員鈴木順子君登壇）

◎6番（鈴木順子君） おはようございます。私は、3月定例会市議会の初日に庄司市長から施政方針を受けました中から4点の問題につきまして通告をいたしましたので、通告順に従いまして質問をさせていただきます。

まず、環境対策について伺ってまいります。ごみの減量化や再資源化の取り組みがいろいろな自治体で行われ始めてから数年がたとうとしておりますが、館山市では4月から紙パックの回収が始まります。国の法律、指導にのっとっての開始となるわけでしょう。

私の議員として一番最初の質問がこの問題でした。当時庄司市長は、いろいろ問題があるので、現段階では考えていない、しかし今後検討をしていきたいというふうに答弁をされたように記憶をしております。しかし、6年もたちますと、社会状況も大分変わってまいりまして、今では各家庭の冷蔵庫の中にはペットボトルや缶飲料などが必ずと言っていいほど入っているはずです。こういう製品がふえてくることによって、私たちも使用後の便利さでつい買ってしまふことになってしまいます。当然使用後は、分別のものは除いて、ごみとして扱っておりますので、ごみの量は多くなっていくことになります。

こういった現状に対しまして、製品をつくる側あるいは売る側の企業責任が今やっと求められつつありますが、残念ながら、今企業は消費者が求めるから製品をつくるんだと言わんばかりの態度であります。したがって、リサイクルできる製品についての後始末が理不尽にも自治体に求

められてきているのが現状であります。特に、今日ではペットボトルをどうするかの議論が盛んになってきております。とりあえず、館山市では4月から紙パックの回収が行われる予定であります。分別収集を行っております館山市のリサイクルへの取り組みと、問題になっているペットボトルなどの取り組みが今後可能かどうか、お伺いをいたしたいと思います。

次に、ダイオキシン対策について伺ってまいります。ダイオキシンが人間の体に与える影響について、非常に危険な物質であることが最近特に言われておりますが、昨年7月、厚生省から市町村などが所有するごみ焼却施設のダイオキシン排出実態調査の結果が公表されたことは御承知のとおりでございます。特に、基準を超えたために施設の改善を行うよう指導をされた県内7施設については、かなりの財政負担をしなければならないということで、7施設の自治体では頭を痛めていると聞いております。館山市の焼却施設からは、基準値の排ガス1立方メートル当たり80ナノグラムは超えてはいなかったようですが、測定結果はどうだったのでしょうか。

また、厚生省からの恒久対策がガイドラインとして示されたと聞きますが、県では今後大規模施設への集約化を進め、広域化計画を策定すると聞いております。しかし、これらの施策はすべて市町村や広域で行っている焼却施設が対象であります。独自に焼却場を持っている病院や小規模事業所あるいは学校、こういったところは対象とはなっていないかと思いますが、こういった施設などの調査は行われていないのでしょうか、お伺いをいたします。

また、問題となっておりますダイオキシンの発生ですが、どのようなものが起因するののかも含めてお伺いをいたします。

次に、福祉対策についてであります。老人保健福祉計画の現状と今後について伺ってまいります。老人保健福祉計画の実現に向けて現在進めている最中であると思います。計画の見直しが行われてから久しいわけですが、実際は国の介護保険法案が審議をされてから骨子が各市町村にありてくることになるんだろうと認識をしておりますが、現在延び延びになっている現状に対しまして、現場ではどういう見直し作業になるのか手も足も出せないのが実態で、今は当初の計画達成に向けていかざるを得ないわけです。そういう状況の中、9年度には老人保健施設の建設に助成をすることが提案をされております。病院から退院後の家庭での生活へ向けて、リハビリ時期をこの施設で過ごすために必要性を求められていたものであります。

老人保健福祉計画の中では、達成計画を満たすベッド数であることが説明をされております。これで足りているかどうかは別といたしまして、計画の中では、特に利用者や家族からもっと回数をふやしてほしいと要望されていますものにデイサービスがあります。現在私どもにも、デイサービスの利用回数をふやしてほしいのだけれどもという要望が多く寄せられております。そこで、デイサービスの利用状況、担当課として要望に足りているかどうか、お考えをお聞かせをいただきたいと思います。

また、昨年同様ですが — 1年前お聞きをしております。しかし、この1年間で達成目標に向けての動きはどうであったか、市として計画の進捗状況、見直し作業はどうなるのか、あわせてお伺いをしていきたいと思います。

次に、教育行政について伺います。9年度の方針の中では、教育について、一人一人の個性に応じた教育の推進を目指すとされております。近年、我が市だけではなく、多くの場で、個性ある教育とか個性を引き出す教育とかゆとりある教育、こういったスローガンが非常に目立ちますが、私は果たして今の教育体系の中でこういった教育が可能なのかは疑問に思っております。一人一人の子供たちの個性を見きわめる教職員の配置体制に現状ではなっていないこと。たとえ個性を見きわめることができたとしても、社会背景が整備をされていない現状では、単なる建前論であって、何も変わっていかないのではないかと思います。過度な受験競争が現実にはあり、ほかの人と変わったことをしないように、目立たないようにと、家庭でも子供たちに教育をしている現実がありませんか。立派なスローガンを立てるなら、それを支えていく整備を — 小手先でなく、変えていくことをしないと、スローガン先行では、そのしわ寄せは子供たちと現場で働く教師に行くのではないのでしょうか。

市内だけではなく、全国的にも子供たちの減少が言われているわけですが、市内小中学校ではどの程度の減少がありますでしょうか。また、教育の場に今さまざまな要求がされているこのときに、千葉県内の教職員の大幅減員が指導をされる、いわゆる希望退職だけではなく、退職勧奨も行われるのではという声を聞いております。行き過ぎた勧奨が行われないよう私は願ってやみませんが、こういう背景がある中で、館山市が進めていこうとしている個性に応じた教育とはどのようにしていくのか、具体的にお答えをいただきたいと思います。

最後に、情報公開条例について伺ってまいります。情報公開については、館山市では前向きに検討、準備がされてきていることは御承知のとおりですが、昨年12月議会におきまして、市民団体より提出されました情報公開条例の制定を求める請願が採択されました。今、県内はもとより、全国的にも情報公開に向けての議論がされつつあると思います。情報公開の機運が高まってきたのは、76年のロッキード事件が契機であったとお聞きをしておりますが、住民の知る権利の保障、住民の税で運営をする行政の住民への説明義務、こういったことを考えた場合、情報公開は当たり前のことであります。

昨年の11月に政府の行政改革委員会情報公開部会が情報公開法要綱案を発表いたしましたが、もしこの案を国会に提出するならば、約300もの関連法律を変更しなければならないと聞いております。したがって、国での制定は今の国会では無理ではないかと言われてもおります。この件に関しましては、地方の自治体先行で動いているのが実態ですが、館山市では情報公開に向けて準備がされているというふうにお聞きをいたしますが、こういったメンバーで作業をお進めにな

っておりますか。また、現在の作業の進捗状況をお伺いをいたしたいと思います。

以上御質問を申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、環境対策についての第1点目、ごみの再資源化についての御質問でございますが、館山市におきましては、従来からごみの減量化、再資源化対策として、鉄、アルミ、ガラス類、新聞、雑誌、段ボール等につきまして分別収集を行い、再資源化に努めてきております。さらに、本年4月からの容器包装リサイクル法の施行に当たりまして、飲料用紙パックの収集を実施し、一層の減量化、再資源化を図ってまいります。

次に、第2点目、ダイオキシン対策についての御質問でございますが、ダイオキシン類の発生原因となるものは、塩化ビニール、発泡スチロールなどのプラスチック類の不完全燃焼が大きな原因の一つであると考えられております。

また、ダイオキシン類の測定についてでございますが、館山市清掃センターでは、平成4年度と本年度に測定を行っております。今回の測定結果は、排ガス1立方メートル当たり8.75ナノグラムであり、削減対策を講ずることとされました80ナノグラムを下回っております。

なお、厚生省が本年1月末に策定した新ガイドラインには、今後年1回の測定が盛り込まれております。

なお、病院、学校、小規模事業所等における焼却炉のダイオキシン対策につきましては、現在のところ県からの通知等は来ておりません。

大きな第2、老人保健福祉計画についての御質問でございますが、在宅サービスにつきましては、ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイ、機能訓練及び各種訪問活動の強化に努めております。また、本年1月から生活援助型の配食サービスを開始したところでございます。施設整備につきましては、既に訪問看護ステーションが2カ所設置され、平成9年度には老人保健施設並びに在宅介護支援センターが開設される予定でございます。

次に、老人保健福祉計画の見直しにつきましては、介護保険法案が現在国会において審議されておまして、その結果を踏まえ、見直しの時期等が国から示されることになっております。

デイサービスの利用状況は、部長より御答弁申し上げます。

第3の教育行政につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

大きな第4、情報公開条例について、情報公開条例の準備についての御質問でございますが、各種団体の長や学識経験者で構成します館山市行政改革懇談会において御意見をいただくとともに、市内部での検討に加え、情報収集のほか、情報公開に向け、職員の研修を実施しているとこ

ろでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第3、教育行政についての御質問でございますが、今次の中央教育審議会の答申において、今後の学校教育の力点は、子供たちに生きる力をはぐくむことであるとされております。この生きる力は、子供一人一人の特性や希望に即した教育、すなわち個性に応じた教育によるところが大きいとされています。このことを踏まえ、現在市内各小中学校においても、教育課程の弾力的運用や選択履修の拡大、習熟度に応じた指導など、指導方法の改善に向け、努力しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） デイサービスセンターの利用状況はどうかという御質問でございますけれども、平成8年4月から9年2月までの利用者は延べ1,136人でございます。利用者1人当たりの利用回数はおおむね月2回という状況になっております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） それでは、再質問をさせていただきます。

まず最初にリサイクル問題とダイオキシン、これをやりたいんですが、再質問したいんですが、ペットボトルに関してなんですが、ペットボトルは最近特に量が多いかと思います。館山市では今、ペットボトルに関しての分別はしておりませんので、普通の、一般の廃棄物、ごみの中に入るかと思いますが、こういったペットボトルの量の増によりまして、ごみの量というのはどうなんでしょうか。最近のごみの量の増とかということが今ここで数字としてわかりになりますでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ごみの量につきましては、微増といいますか、横ばいから多少ふえているというような状況でございまして、これがペットボトルに起因するかどうかというようなことについては把握をいたしてございません。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 確かに分別しているわけじゃないですから、いろいろなものがまざっているわけですから、どういったものなのかというのはちょっと特定できないかと思います。



それで、ちょっと前後いたしますが、紙パックの回収に関してお聞きをいたしたいんですが、4月から回収が始まります。回収した後の問題なんですが、これはどういった扱いをされていくんでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 収集しました紙パックにつきましては、委託業者を通じまして再利用業者の方に送る、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 例えば古紙の回収と大体同じような扱いになるというふうな判断でよろしいんでしょうか。

それと、例えば市の庁舎内にその回収箱を設置するとかということをお考えになっているのか、あわせて伺いいたします。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 古紙のいわゆる回収、それから再利用ということと同じかという御質問でございますが、収集だけが紙パックにつきましては直営で収集をいたしまして、その後の流れは同じでございます。

それから、庁舎内に紙パックを集めるようなステーションといいますか、そういうものをお考えかということでございますが、それは今後考えてまいります。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 私も家庭の中でごみを出す立場の人間ですが、庄司市長を初め、クリーン・アンド・ビューティフル運動などでかなり啓蒙活動にお力を入れていることは承知しておりますが、まだまだ — 意識が住民の細部にわたって行っているかということ、必ずしもそうではないんでないかなというふうに思っております。

これは非常に人間として恥ずかしいことなんですが、要するに自分の家の周りあるいは自分の家は非常にきれいにいたしますけれども、一歩自分の家から出ますと、意外とむやみに、無造作にごみを投げ捨てる、いわゆるポイ捨てというようなことを行っている人が結構いる。恐らくこの中にも似たような行動をしている人がいるんじゃないかというふうに思うのでありますが、非常に私は — 近年、近隣でもやっておりますが、空き缶のポイ捨て条例ですとか、そういった問題が — 各市町村の入り口であるとか、道路上に看板が立っております。ああいうのを見ると、こういうものを立てなければいけないことを非常に恥ずかしく思うというふうないつも感じる、あれを見るたびに感じるんですけれども、例えば今後に向けて館山市ではこのポイ捨て条例みた

いなものをお考えになっているのかどうか。できれば市長の方にお考えをお伺いしたいんですが、いかがでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ポイ捨て条例に関する御質問でございますが、これは過去に秋山議員さんの方から再三御質問をいただいております、前回、これは一つの市や町、村で条例を制定しましても効果がどうなのかというようなことで、ある程度の地域、言うなれば安房地域というような、その中で足並みをそろえて実施をすれば、より効果が期待できるんじゃないかというようなことでお答えしてあったわけでございます。

先般、安房11市町村の環境衛生担当課長にお集まりいただいて、この問題ばかりじゃございませんで、環境衛生にかかわる問題についての情報交換の場を設けたらどうかというようなことで、11市町村の皆さんの御賛同をいただきまして、そういう——これは仮称でございますが、安房郡市環境衛生部会というようなものをつくりまして、その中で当然このポイ捨て禁止条例につきましても協議をして、既に現在鋸南町、千倉町、鴨川市では先行しているわけでございますが、それと歩調を合わせるような形でそういう制定に向けて協議、検討をしていく、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） それでは、問題が一緒になるところもちょっとあるかと思うんですが、ダイオキシンの方の問題についてなんですが、現在館山市では、発泡スチロールに関しまして、廃棄物の、ごみの中に一緒に入れて持って行っていただくというようなことをしているかと思うんですが、これは燃やしていらっしゃいますよね。それとあと、塩化ビニール——よく言われているのがビニールハウスなどに利用したビニールですか、そういったものがよく言われているわけなんですが、これはたしか農協さんの方でお引き取りをいただいているというふうにお聞きをしておるんですが、そういったものがもし搬出場所の方に出ていた場合、市の方ではどういった対処をなさっているんでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 御指摘のように、農業系のビニールにつきましては、農業協同組合等のそういう流れの中で処理されているわけでございます。御指摘のように、そういう農業用のビニールがいわゆるステーション等に出された場合の対応ということでございますが、現在のところ特にそういうようなものが多量に出されているというような、そういう話はございません。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） まずはそういったことがちゃんと徹底しているというふうに受け取っていいのかというふうに思います。

先ほど小規模の事業所や病院あるいは学校などの焼却施設はどうなんだということに対しての御答弁をいただいたんですが、実はこれは県議会の方で議論になったことがかつてありまして、そういったところもきちんと調べた方がいいんじゃないかという質問に対しまして、県の担当の方から今後各市町村については指導をしていきたいというようなお答えをいただいているというふうに私は聞いていたものですから、まだそれが下の方におりてきていない現実があるようなので、早急にまた県の方に連絡——議員の方にちょっと連絡をとって、進めていただくようお願いをしています。

それと、これから年1回調査をするということになりますと、この調査というのは大体どのぐらい財政的に言ってお金がかかるんでしょうか。何かかなりかかるというふうに聞いておりますので、大体でよろしいですから、おわかりのようでしたらお答えをお願いします。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ちょっと詳しい数字を持ち合わせておらないわけですが、約300万ぐらいかかるというような、そういうことであります。詳しい数字につきましては、後ほどお答えさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 私も具体的な数字では承知をしておりませんが、かなり高額だというふうに聞いておりますので、その辺の——例えば補助がどうなっているのかとか、これは自治体ですべて責任を負ってやっていくのかということもちょっとありますので、今後そういったことが議題になってくるのかなというふうに思いますが、また機会がありましたら、その件についてはお伺いをしていきたいというふうに思います。

先ほど来言っています発泡スチロールの件についてなんですが、やはり発泡スチロールという、結構かさばるわけです。ああいったものが——事業所なんかでは、恐らく自分のところで処理をなさっているんでしょう。燃やされていると思いますが、一般家庭で出される発泡スチロールをできれば分けて収集なさって処理をしていただけたらなというふうに思いますので、今後その件につきましては検討していただきたいというふうに思います。

この問題につきましては、ほかの議員さんの方も質問なさっているようですので、そちらの方でまた詰めていただきたいというふうに思います。

福祉計画の件なんですが、デイサービスなんですが、要望と実際の今やっている月2回ですか、1人月2回という回数につきましては、非常に隔たりがあるように思うんです。市の方で例えば

デイサービスをふやしてくれというような要望を直接伺ってはおりませんでしょうか。そういった要望はあるのかないのか。現場でどうなんでしょう。これは計画のまだ途中なんです、現在いろいろな面でのサービスが実際に足りていると思われるかどうか、お考えをちょっとお聞かせください。

◎議長（山中金治郎君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 現状の中ではそういった声を聞いておりますけれども、これから——今現在進めております老人保健福祉計画の中で、老人保健施設、この充実を図っていかうということから、この9月から、デイケアといいまして、デイサービスと同じような内容ですけども、20人規模で計画されております。そういった中で、この施設のスタートとあわせて利用の拡大を図ってまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 足りているかどうかというのは、非常に複雑な部分もちょっとあるかなというふうに思うんですが、私は正直言って、デイサービスへの要望というのがこんなにあるとは思わなかったというふうに認識しています。その辺どうなんでしょう。確かにこれから保健施設の中に20人規模ということが補足されたり、あと三芳の方——これ民間ですか——でもやっています。そういったことも利用しながらということになるのか。そういった要望に対してどう今後——この20人規模、老人保健施設の20人規模だけではとても私は数が足りないというふうに思うんですが、その辺はお考えどうなんでしょう。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） こういった施設は、広域的なとらえ方も1点あるわけです。といいますのは、現在特別養護老人ホームのデイサービスセンター、その利用状況を見てみますと、富浦地区の住民も何人か利用されている。そういった状況の中で、富浦地区にも養護老人ホーム、そういった施設を併設——デイサービスを併設した施設をつくるという話を聞いております。そういったことを考えますと、館山の特別養護老人ホームの利用の緩和がある程度これから図れるんじゃないかという考え方が一つございます。そういったことで、一層の利用が図れるんじゃないかというふうに考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） これから見直し作業もあるかと思います。早く骨子が来てもらわないと困るんですが、でも別に骨子が来なくても、見直し作業というのは実態調査を初めできるわけですから、そういった作業は私は年計画で進めていってほしいなというふうに思います。それで、

その件は、また今後もありますので、これまでにしておきますが。

次に、教育行政についてなんですが、非常に言葉は立派なんです。生きる力、希望に満ちた、弾力性のある、教科の選択とか、いろいろあるんですが、今学校の1学級の平均生徒数というのはどれぐらいでしょうか。わかりますでしょうか。平均でなくても、大体ということでもよろしいです。

◎議長（山中金治郎君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） ただいまの1学級当たりの子供の — 生徒並びに児童数という御質問でございますけれども、これは平成7年度、平成8年度をちょっと見てみますと — 県の基準と館山市のものを対比いたしましたのは、やはり統計上必要かと思えます。そんな関係で申しますというと、平成7年度、館山市内におきます1学級児童生徒数につきましては、平均25.3、平成8年度が25.0、それから中学校の1学級生徒数が32.4、平成8年度が31.7というのが実態でございます。

なお、1人の教員当たりの生徒並びに児童数を申し述べますというと、平成7年度は、館山市は教員1人当たりは17人、それから平成8年度が16.7人、それから中学校が、15.2人が平成7年度でございます。平成8年度が14.7人でございます。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） これはあくまで平均ですから、大規模校になりますと、実際には40人ぐらいで — 40人を超えることはないのか、大体40人程度ということをしているのかと思えますが、そういった学校、40人を — たしか担任がいて、副担任ということ — そういう制度になっているかと思うんですが、担任と副担任と1学級を2人で見るという、実際に実務としてそういうふうになっているんですか。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） ただいま実務上のお話でございましたけれども、ただいま館山市におきます加配されている学校の数でございますけれども、8年度を見た場合には、小学校で6校、中学校4校というような配置がなされております。実務的なものにつきましては、これはあくまでもそれぞれの学級担任がやるべき仕事でありまして、特別の事情がある場合には、その他の職員がそれを手助けし、応援をすることになります。しかしながら、教科の指導につきまして、それら加配された人たちというようなものが教科の側面から援助をしているわけでございます。また、加配された者につきましては、例えば生徒指導上で大変困っているというような場合には、それを援助する教員等が配置されている中で、全体的立場でこれを援助し、そしてまた実務的な処理というようなことはしております。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 今も答弁ありましたように、実際に実務として担任が責任を負う、40人の子供たちを担任が1人で責任を負うというような形になるかと思うんですが、例えば担任が研修やら休みやらをとったときの補佐的な——かわりに担任の補佐をするというような形になるかと思うんですが、私は40人の子供たちに対して——小さいところは私はそれほど深刻には思っておりませんが、特に大規模校に関してですが、40人近い子供たちを実際には1人の教員で見ているという中で、やっぱり社会的なこういった——塾やら、いろんな習い事やら、受験競争の中で、なかなかそれを——ゆとりのある教育とか個性ある教育とか、立派な言葉を言っても無理ではないかなというふうに率直に言うて思うわけです。実際の家庭に置きかえましても、お母さん1人が子供を——大勢いらっしゃるところもありますが、非常にびりびりしながら子供を育てているというのが現状ではないかなというふうに思うんですけれども、この40人体制のところ——これは国、県の指導もあると思いますので、館山市だけ突出してというふうなことはできないのではなかろうかなというふうに思うんですが。

あえてお聞きをしたいんですが、私は常々申しておりますように、子供のいろんな——今のこの多様化の時代に向けて、先生の数が少ないんじゃないかというようなことをずっと申し上げております。そういった中で、今度県の方で先生の減員、教師の減員ということをちょっとお聞きをいたしまして、館山市ではどうなんだろうかな、市内の学校ではどんなぐあいなんだろうかなというふうに思います。ちょうど今、もう1週間かそこいらすると、人事面のことがはっきりと出されるわけなんでしょうけれども、教員の数——見込みでよろしいです。正式な数は出さなくても結構ですが、今までの退職者の数よりも多いか少ないかだけお聞かせをいただきたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 館山市におきまして、今申し上げましたとおり、教員数はあくまでも法的な基準に従いまして成立しておりますので、明年度も本年度も同じような対応で推移するというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） これは館山だけで独自にというふうなことにはなりませんので、今後これも話はしていかないといけないのかなというふうに思います。

一つお考えをお聞かせ願いたいんですが、例えば今、教員というか、教育の場では、安房郡とかの境があるわけです。我々は、安房郡内の先生方の異動に際しても、安房郡内でやっているというふうに、現実ではそういうふうに行われていると思うんですが、例えば安房郡というと、端が鋸南町になりますか。鋸南町から天津の方までの転勤というような非常に遠い転勤、そういったことでなく、例えば鋸南町の先生でしたら、安房郡を通り越して富津に行くというような方が

非常に距離が短いわけです。これをやっちゃうと、歯どめがどうなのかなと、一見別の部分での心配もあるんですが、そういったことも可能なのかなというふうに — その辺は先生方の間で、教育関係者の間では議論になっておりますでしょうか、簡単でいいですからお答えください。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 大変ありがたいお言葉で、感謝申し上げたいと思いますけれども、その線が取り外されれば、これは大変貴重な、職員にとりましてもいい救済方法じゃないか、こう考えておりますし、また我々も — 私個人でございますけれども、その議員さんのおっしゃるような案に対しましては、私も唱えている一人でございます。ありがとうございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） ここでこんな議論をしちゃいますと、先生方の方からしかられるかもわかりませんが、ただ反面、危険を含んでいる部分もあるということを指摘しながら、今後こういった議論が出てくるのかな、出てくる時代になったのかなというふうに思いますので、その反面の危険性の部分ですが、その辺を頭に入れながら議論していただきたいというふうに思います。

最後の情報公開の問題についてなんですが、今千葉県内では10市が制定をされております。12月に野田が制定しましたので、10市になりました。今議会におきまして、市川、流山が提案をされているというふうに聞いております。今恐らく議論の真っ最中でしょう。

ただ、非常に気にかかる問題として、この構成メンバーなんです。作業の構成メンバー。やはりこれは情報公開のものの部分です。なぜ情報公開というものができたのかということを考えていただくと、市民参加 — 例えばこの構成メンバーに市民がいなかったら、団体の長 — それは確かに立派な方がいらっしゃるでしょう。いろんなことを経験された方もいらっしゃるでしょうけれども、やっぱり一般の市民の — 公募でも結構です — 参加がなかったら、とてもいいものができないんじゃないかなというふうに思います。どうも話を聞いておりますと — 職員でこの情報公開の案をつくっていかうとしているのか、その辺をちょっとお聞かせください。例えば、先ほどの答弁の中にありましたけれども、懇談会の方があるようなんですけれども、この情報公開に向けてのための懇談会をつくられたんでしょうか、その辺ちょっとお聞かせください。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 情報公開制度の検討についての御質問でございますが、まず検討組織といたしましては、内部でももちろん検討組織を設けてございます。あわせて、館山市行政改革懇談会 — これは9名の委員さんで構成されている懇談会でございますけれども、そこで御検討をお願いしているところでございます。したがって、新しい審議会等、新しい組織を結成しているわけではございません。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） やはり新しい組織をつくっていただきたいと思います。例えば市川も流山も、作業に大変な年月をかけていらっしゃる。これは、ちゃんとした別の組織をつくって、それでやっと今議会に提出の運びになっているというふうに聞いております。やはり市民と行政が一体となってつくるまちづくりをするためにこれがあるんだということを踏まえていただきたい。そういった見地からすれば、市民の公募でどうでしょうか。そういったことでこういう組織をつくっていただきたい、それで検討していただきたいというふうに思います。これは要望をしておきたいと思います。

最後に一つだけお聞きをしたいんですが、いつまでにつくるのか、それだけお聞かせください。そして終わります。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 情報公開条例の制定につきましては、平成9年度中をめどに準備を進めているところでございます。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先ほどの御質問でダイオキシンの測定費用の御質問がございまして、答弁を保留させていただきました。今回の調査に要しました費用は、消費税込みで294万円でございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 以上で6番議員鈴木順子さんの質問を終わります。

次に、14番議員永井龍平さん。御登壇願います。

（14番議員永井龍平君登壇）

◎14番（永井龍平君） 既に通告いたしました5点について質問いたします。

まず、美しい自然や伝統的な風景などを守るための景観美化条例の制定は考えられないかというところでございます。美しい町並みや伝統的な風景などを守るために、景観行政を重視する自治体がふえてきております。これらの自治体では、条例の制定や改正、罰則の強化などで景観アップ作戦を展開しているわけです。

都市の美観を損ねるものでは、電柱や送電線、屋外広告物、高層建築物、路上駐車、放置自転車、野立て看板など、さまざまございます。古都である京都市では、自動販売機についても歴史的な町並みにふさわしい色彩にするよう事業者に指導できる内容も含まれている条例を制定いたしました。あふれる広告物に頭を悩ませている横浜市も、広告や張り紙などの設置を禁止する対象を大幅に拡大した改正条例を昨年12月よりスタートをさせました。従来は、その対象を街路樹、橋、郵便ポストなどの公共物に限定しておりましたが、改正後は、ピンクチラシが目立つ電話ボ



ックス、信号機、ガードレール、道路標識など、十数種類までふやしました。また、実効性を高めるために、罰金も最高30万円だったものを50万円までにしました。このように、各地での規制強化の影響を受けて、東京都では条例制定に向けた検討会を開いております。有識者らで構成するこの検討会は、中間まとめという形で論点を整理し、これを推進するための具体策として、大規模な開発や建築については、事業者の自主的な景観への配慮を促すための届け出制度の必要性を提唱しております。さらに、都民の意見を景観づくりに反映させるため、景観づくり推進員によるモニター制度や、住民を交えた景観づくりも提言しているのであります。

さて、館山市におきましても重要視される景観があると思います。当市の魅力といえば、まず美しい海であります。緑深き山があり、花の咲き乱れるフラワーライン、城山公園を初め各種憩いの場としての公園であり、また館山市の玄関である館山駅周辺であります。このように、景観を大切にしたいという場所は数多くあるのでございます。これらの景観を乱されてしまってからでは手おくれなのであります。当市の将来的な展望に立って、現在打つべき手を打っておく必要があるのではないのでしょうか。いわゆる景観づくりの目標としては、海や山の緑や地形などの自然の景観を守ること、館山の歴史や文化を伝える景観を生かす、館山市の多様な魅力的な景観を発展させることなどを柱とした景観行政を力強く推進していただきたいと考えるものであります。そして、具体的には景観を美化するためのこの条例を制定したらいかがかと考えますが、この点について市長のお考えをお聞かせください。

次に、小中学校のトイレの改善について御質問いたします。最近の調査であります、小学生の8人に1人は便秘性であり、その原因に大便をしたいのに我慢するという便意抑制が深くかわっているということが言われております。

この調査は、北海道旭川市の医師、国本正雄氏が行ったものでございます。昨年3月から4月にかけて、同市の小学1年から6年までの男子114名、女子190名、計304名にアンケートをとったところ、全体の13%が便秘または便秘ぎみと答えたようです。便通回数は、1日1回が全体の半分ですが、高学年女子は2日ないし4日に1回が約半分で、高学年女子の中には便通のない状態が1週間も続いた子もいたようでございます。また、便通を強く我慢する、あるいは時々我慢するは小学生で8割もあり、その傾向は高学年になるほど強かったそうであります。トイレについては、自宅のトイレは洋式が9割、学校のトイレについては6割の子が洋式を望んでおります。学校で大便をしないと回答したのは6割強もあり、なぜ学校で大便をしないのかと聞いたところ、さまざまな回答がありましたが、その理由として、汚い、臭い、休憩時間が短い、落ちつかない、遊びで忙しい、恥ずかしい、冷やかされる、いじめられる、他人がたむろする等の答えがありました。これらの結果から、国本氏は、小学生の便秘を改善する具体的な対策として、トイレの美化、設備の改善、レイアウトの改善、休憩時間の延長などを挙げております。

さて、これらは北海道旭川市の実情であります、当市の場合はいかがでありますでしょうか。また、これらの調査は行われていないと思いますが、私の考えでは、この場合とかなり似ている、類似した実情であるかと思われますので、その改善方をお願いしたいと思うのであります。

次に、行財政改革についての市長のビジョンは何か、また職員の定数についてはどう考えているかをお尋ねをいたします。行財政改革の真の目的は、高度成長時代に肥大していった行政の無理、むだ、むらを省いていき、効率的な行財政を行うことにあるわけであります。つまり、景気のよい高度成長時代には、豊富な予算に基づき、さまざまな施策を広げることができました。それに伴い職員の数もふやし、その時代にふさわしい展開ができたのであります、時代が推移して、このように厳しい冬の到来を迎えた現在、圧縮された予算から大事なものを優先的に選び、施策として行っていくときに入ったのですから、当然この冬の時代に対応した行財政面での改革を断行していかなければならないのであります。

そこで、無理とむだとむらを改善していくには — 無理なくということは、今の時代を熟知した上で、それにふさわしい館山市をつくり上げるために、市長の聡明なる頭脳と政治力を駆使し、新たなビジョンを立てるということであると考えます。次に、むだをなくす、これは少しでも効率よく予算を運用するということでもあります。市で支出している各種団体への補助金が適正に運用されているかどうか、これを見きわめていくことも大事であります。また、職員の定数の改革もその中に入るといいます。そして、むらのない行政とは、行政需要の多い部門、少ない部門とでは、それなりに対応が違ってくるわけであります。要するに、行政需要の多い部門と少ない部門のむらをなくすということでもあります。

ここで1点申し上げておきたいのですが、私は行政改革を進めるために必要な市民サービスの低下を損ねるような結果には反対なのであります。行政改革は、市民が今一番望んでいるものは何かという行政の原点を見きわめながら弾力的に行っていくものであらうと考えているものであります。

そこで質問であります。市長は今までどのような行財政改革を進めてこられましたか。また、今後どのように進めていくおつもりなのか、そのビジョンについてお尋ねをいたします。また、補助金の支出団体の見直しや職員の定数についてもお答えいただきたいと思います。

次に、待望の東京湾横断道の開通による市の対応はどう考えているか、お尋ねをいたします。十数年前、東京湾横断道の計画が発表されたときに、果たしてこれが実現するのかと疑ったことさえあったこの計画が、今その完成を目前にして、開通されようとしております。この横断道の開通により、館山市にとっても、また近隣の各自治体にとっても、その地域の活性化と発展に重要な影響を受けるのであります。

であるならば、当市もその開通を目前にした現在、いかにしてその利用者、観光客などを —

この館山市に大勢来てもらうよう考え、計画をしているものと思います。この東京湾横断道時代を迎えるに当たり、まず何はともあれ、その人たちに館山に来てもらわなくてはならないのであります。

そこでお伺いたします。現在市当局は、この受け入れ体制についてどのようなことを考え、計画をしているのか、お尋ねをいたします。

最後に、消費税アップと一連の公共料金の値上げについて市長はどう思うか。また、市の公営企業料金、使用料、手数料への転嫁はすべきでないと思うが、どうかであります。某新聞の全国調査によりますと、消費税アップに反対の人たちは54.3%であり、どちらかといえば反対が27.8%、どちらかといえば賛成は12.1%、賛成 4.8%、わからない、無回答が 1.0%との回答があり、国民の大多数がこの消費税アップに反対をしていたのであります。加えて、この消費税アップで、その影響により公共料金が軒並み値上げの様相なのであります。いわゆる電力、ガス、鉄道、バス、タクシー、たばこ、酒類、NHK受信料、ほかに高速道路、国内航空、銀行、証券手数料等々であります。このように生活に身近なものが主として値上がりするものですから、このままでは家計が支えられなくなるのではないかという不安でいっぱいの国民が大多数なのであります。

つい先ごろ、私も市民の方たちと親しく対談する機会を得まして、この消費税についてさまざまな質問や御意見をいただきました。その中のある老人は、病身で病院に通っておりますが、その老人いわく、今まで無料であった老人医療も有料になり、その上今度は外来費と入院費が値上がる。私は将来市の老人施設にお世話になると思いますが、館山市は値上がりすることはないんでしょうかという質問を受けました。また、ある主婦の方は、家のローンで大変であるのに、消費税が上がって暮らしにくくなりました。この上に館山市のいろいろな手数料が値上がりしては、家計がパンクしてしまいます。何とかならないんでしょうかという御意見もありました。また、あるサラリーマンは、特別減税の打ち切りがあるし、その上保険料金も上がる。国の方針では先の見通しが立たない。国のやることは不安材料が多過ぎる。市の方はどうですか。大丈夫でしょうか。館山市長は消費税のアップに対して賛成なのか、反対なのか、本音はどうなんだろうかと、一歩切り込んでくる質問もありました。ある青年は、いつも使っている市の体育施設の使用料まで値上がりですか。せめて市は私たちの立場に立ってほしいという意見もありました。

このように、市民の大多数の人々が国の方針では将来どうなるんだろうという不信感を抱えているのが現状なのであります。国のやることは当てにならない、国のやることは信用できない、せめて一番身近な行政である館山市は市民の味方であってほしい、市民の生活心情を最も理解してくれる行政であってほしいと多くの市民が考えているのであります。こういうときにこそ、館山市は市民の味方です、市の行政ででき得る限りのことは全力を挙げてやります、ですから安心してくださいと市民に呼びかけてもらいたいものだとは私は考えるものでございます。

このような市民の声に市長は — この消費税、公共料金アップに対してどのような見解に立っているのかということ、市民は耳をそばだてて市長の声を聞きたいと思っているのであります。市長が国寄りなのか、市民寄りなのかというのは、その傾きぐあいにより、市民にとっては大変重要なことなのであります。市長の考え方が、例えば国のすることは大変結構なことですと、国の意向に傾いた分だけ不安材料は多くなるのであります。市民の将来に冬を思わせるこの厳しいときにこそ、市民の味方としてのメッセージを送っていただきたいのであります。私は、私の質問に対する御答弁としては、市長の市民に対して与えるメッセージとして答弁をしていただきたいと思います。願わくば、市長として市民の皆さんに将来光が見えてくるようなお答えがいただきたいと思うのであります。

いま一度質問いたします。市長はこの消費税アップと一連の公共料金値上げについてどのように考えておりますか。また、市の公営企業料金及び使用料、手数料への転嫁はすべきでないと思うのですが、この点についてどのように考えておられますか、お尋ねをいたします。

以上御質問申しましたが、御答弁により再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの永井議員の御質問にお答えいたします。

第1、景観美化条例の制定についての御質問でございます。南房総の美しい自然や景観を守り、子孫に伝えていくことは、極めて大事なことでと考えております。館山市では現在、市民の協力を得まして、クリーン・アンド・ビューティフル運動の実施や、街並み景観形成指導要綱によるリゾート地にふさわしい景観づくり、さらに宅地開発指導要綱による乱開発の防止等、美しい自然や街並みの創造に取り組んでいるところでございます。

大きな第2の小中学校のトイレの改善は、教育長が御答弁申し上げます。

行財政改革についての問題でございます。市長のビジョンは何かとの御質問でございますが、行財政改革の目指すところは、活力ある文化福祉都市の実現でございます。このため、最少の経費をもって最大の効果を上げるという行政運営の基本原則にのっとりまして行財政改革を推進しながら、行政サービスの一層の向上と簡素で効率的な行政運営の確立に努めてまいりたいと考えております。

また、これまで実施いたしました行財政改革でございますが、組織機構の見直し、補助金の整理合理化、OA化の推進等でございます。

補助金支出団体の見直しでございますが、行政の責任分野、行政効果等を総合的に検討し、整理合理化に努めてまいります。

職員の定数についての御質問でございますが、少数精鋭を基調にいたしまして、引き続き定員

の抑制を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第4、東京湾横断道路の開通によります館山市の対応についての御質問でございますが、館山市基本構想に基づきまして、首都圏に誇る南房総の恵まれた自然環境を生かした海洋性リゾートタウンのまちづくりを推進しまして、通年型、滞在型のリゾート地の形成を目指しているところでございます。特にその中核施設として、ウェルネスリゾートパーク計画やビーチ利用促進モデル事業等の集客施設の早期整備を図るとともに、魅力あるイベントの展開や受け入れ体制の強化等に努めているところでございます。また、現在、館山自動車道などの広域幹線道路の整備によります観光を含めました各種産業への影響調査と振興方策の策定を進めているところでございます。

次に、大きな第5、公共料金の値上げについての御質問でございますが、税あるいは公共料金等につきましては、住民サービスの観点から、できるだけ安いのにこしたことはございません。しかしながら、消費税は、地方公共団体の行う事業につきましても、その経費に課税されます。もし転嫁を行わないとすれば、本来サービスの受益者が負担すべき消費税を受益者以外の人が負担するということになります。公平な負担という見地から、適正な転嫁、これはやむを得ないものであると考えております。また、公営企業料金につきましても、各経費に消費税が課税されることに加えて、現実に納税義務が生じている等のことから、適正に転嫁せざるを得ない、これが必要であると考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第2、小中学校のトイレの改善についての御質問でございますが、校舎の改修に合わせましてトイレの改善に努めているところでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） それでは、再質問をさせていただきます。

まず、景観美化条例の問題でございます。このことにつきましては、ヨーロッパなどでは頑固過ぎるほど——歴史と伝統と文化、これを守るために、この景観について大変気を使っておるようでございます。我が国でも、歴史と伝統のある京都だとか奈良だとか、また東京、横浜など都市の美観を損ねる要素の多い都市、これらがこの条例化を進めているわけでありまして。当市もこれから、東京湾横断道、東関道館山線の開通等、人の交流が多くなるわけでございます。そうすると、景観を損ねる懸念が出てくることも考えられるわけです。

そこで、町並みの景観を損ねる一番多いものは、先ほど鈴木議員が申し上げました物のポイ捨

て等が一番今現在館山では多いわけです。先ほどの答弁——部長からの答弁がございました。安房地域の環境衛生部会で今検討中だという答えがありましたが、十分検討していただいて、その実現に向けて努力してもらいたい。これは一つ要望をしておきます。この件は以上で終わります。

次に、小中学校のトイレの改善でございますけれども、ただいま校舎の改修に合わせてということでございます。

じゃ、お尋ねをいたしますけれども、現在小中学校——小学校、中学校に分けて、洋式のトイレと和式のトイレがあると思うんですけれども、この割合はどういうことになっておりますか。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 設置状況でございますけれども、現在小学校につきましては11校中9校、それから中学校におきましては4校中2校に設置しております。

なお、一部未設置校におきましては、学校によりましては簡易便器等を備えているところでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） 先ほども述べましたように、子供たちは洋式トイレの方が好きなようでございます。ですから、校舎の改修に合わせて——合わせてよりも、すぐにでも順次このトイレを、洋式のトイレをふやしていつてあげてもらいたいな、このように思います。これを強くお願いしておきます。これも終わりでございます。

次に、行政改革について伺いをいたします。現在、国はもとより、全国の各自治体でこの財政改革が叫ばれております。そして、その断行に向けて大変な努力をしているようであります。

御答弁では、組織機構の見直し、補助金の整理合理化の推進、OA化の推進等をしてきたとのことでございますが、これらのことは、具体的にどのようなことを実施してきましたか、まずお尋ねをいたします。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 組織の見直しでございますが、平成7年4月1日におきまして、従前の組織を見直しまして、4つの課、2つの係を削減いたしまして、定数といたしまして3人の削減を図ったところでございます。

◎議長（山中金治郎君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） この作業も大変だと思います。

それでは、いわゆる補助金支出団体の見直しについて質問いたします。御案内のとおり、過日の房日新聞で、鋸南町が納税貯蓄組合への補助金を大幅に削減するという報道がありました。それによりますと、納税貯蓄組合に対する補助金を今年度から事務費程度に大幅に削減する方針を

固めた。これまでの補助のあり方をめぐる住民監査や住民訴訟を契機に再精査をした結果、このように決定したようであります。

このことについては、法律上不適切という問題があります。この問題ではかの市町村に大きな影響が出ると思いますけれども、当市の組合数、世帯数、その補助金はどのぐらい出ているのか、そしてこの問題について市としてどのように今後考えていく方針なのか、お聞かせ願いたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 当市におきます納税組合の状況でございますけれども、平成8年7月1日現在の数字で132組合、3,637世帯となっております。この納税組合への平成8年度におきます納税奨励金の額でございますが、1,397万1,170円という実績になっております。

この納税組合への奨励金の今後の考え方でございますが、県内各市の多くは奨励金制度を有しておりまして、計画的な納税の支援に努めるということでやっております。しかしながら、今後各市の状況あるいは県の指導等を勘案いたしまして、必要があれば見直していきたいというふうに考えておりますが、当面は現行制度の維持ということで考えております。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） これだけのお金、1,397万1,000円を出しておるわけです。ほかの市町村の動向を見ながらということでございますけれども、一面、100%の納税率ということで、大変結構なことでございますけれども、十分にまた検討していただきたい、このように思います。

次に、定員管理の適正化についてちょっとお尋ねします。自治省の職員の定員管理の適正化の調査があると思うんですけれども、県内の類似団体による館山市の評価、あるいはその類似団体はどのくらい——どここの市がどのくらいなのか、類似団体で御説明願えますか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 人口あるいは面積、産業構造、高齢化の状況等、行政需要に着目いたしました定員モデルで類似団体との比較をいたしますと、県内で館山市と同じグループに属します類似団体、佐原市と東金市があるわけでございますが、それぞれのモデルとの比較で申しますと、佐原市においてはモデルより15人多い、それから東金市においては11人多いという状況でございますが、当館山市におきましては、そのモデルと比較いたしまして2人少ないという状況になっております。

◎議長（山中金治郎君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） 今の説明によりますと、当市のレベルは平均よりいいわけですね。大変結構なことでございます。

それでは、同じ定員管理の適正化について、また配置について御質問します。申し上げるまでもなく、このことにつきましては計画的かつ弾力的な管理でなければならないわけでございます。私が申し上げている定員管理の真意は、いわゆる考えていることは、市民サービスの低下をさせてまで定員を――先ほど申しましたが、低下させないで、いかに効率的な行政運営をするかということであります。そして、余ったお金を、それを福祉に回す、あるいは職員の給与に反映してもよい、このように考えています。

いわゆる今後の市の行政を考えると、福祉関係やごみの収集等、行政需要がふえる部分が多く見込まれるわけで、当然それに対応した手厚い人員配置はすべきであります。しかし、今のいわゆる経済状況あるいは市民感情を考えますと、安易な職員の増員は許されない環境にある。それでは、どこから人を持ってくるか。これは天から降ってくるわけではありません。もう頭を使って知恵を出す以外にないのであります。知恵の出ない者は汗を出すべきであります。汗の出ない者はもう黙って消えていただくしかない。いろいろと方法はございますけれども、この問題についての一つの手段として、現在の定員の配置の徹底した見直しを行って、仕事の量に合った定員配置をする方法であります。いわゆる行政需要の減少部門から、多いところからシフトする方法であると思うんです。

例えば、当市の農水産課でございます。農漁業者の戸数はもう相当減っていると思うんです、十数年前から比べると。昭和60年度の農水産課の職員は17名おりました。このうち1名ないし2名は畜産係であったと思います。その畜産係がなくなりました。ですから、十五、六名じゃないかなと私は推測するんですけれども、現在の農水産課の職員は16名であります。12年過ぎた現在も、いわゆる今も同じ人員で仕事をしている。戸数の減少――それ以外に大きな仕事とか事業とか、いろんなものが出てきているとは思いますが、12年前の状況と今の状況で、同じ数の職員である。これはちょっとどうかなと僕自身思うんですけれども、このことについて説明をしていただきたい。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 各組織におきます職員の定員でございますけれども、その年々の行政需要によりまして、職員の配置をおっしゃいますように弾力的に行っているわけでございます。農水産課、確かにおっしゃいますように現在16人の構成で、大きな変化はないわけでございますが、先ほど申し上げました平成7年4月の組織改正によりまして、従前ございました6つの係を4つの係に減らしております。業務量といたしましては、ほ場整備でありますとか漁港の整備、そういった業務がございますことから、毎年度組織定数については見直しはいるわけでございますが、先ほどお話がございましたように、17人から16人になったということで推移しているということでございます。



◎議長（山中金治郎君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） 全体的に年々行政需要に応じていわゆる適正な配置をしているということでございますね。農水産課は適正でしょう。認めます。先へ進めましょう。

それでは、市民課。市民課の仕事でございますけれども、市の市民課の仕事は、住民票の発行、そして各種証明書の発行ほか、国保、年金業務、あるいは相談業務、いろんな仕事をしておるわけでございますけれども、それなりに市民と直接かかわりのある部門でございます。これも常識的に考えれば、人口の増減によって、その行政需要の増減があるわけです。

ここで――市民課の皆さんに大変申しわけないんですけれども、データを調査しました。平成8年4月現在、君津市の職員、市民課の職員が37名、人口9万3,537名、市民課1人当たりの人口割り当て数――いわゆる1人の職員が市民何人の人たちをやっているかというあれです。君津市は1人の職員が2,528人を賄っているというようなことです。茂原市が、35名の職員で、人口9万2,000余り、それで1人の職員が2,656人やっている。勝浦市が、12名の職員で、人口2万4,700人、2,059人の人を賄っている。木更津市が、61名の職員で、人口12万4,000、2,035人。袖ヶ浦市が、24名の職員で、5万8,400、2,435人の人をやっている。東金市が、30名で、人口5万5,500、1,851人。富津市が、25名の職員がいて、5万5,600人、1人の職員が2,224人の人を賄っている。当の館山市でございますけれども、職員が28名おりまして、人口が5万3,501人、職員1人当たりの賄っている数が1,910人なんです。鴨川市は、市民課の支所があったりしますんで、これに入れておりません。

これでわかると思うんですけれども、当市では、市民課職員の1人当たりの市民の割り当てといますか、受け持つ数は1,910人、今言いました。茂原市では2,656人です。その差は746人、茂原の方では多くやっているということです。わかりますか。例えば、当市と茂原市とも行政サービスの水準が全く同じであるとすれば、やることが全く同じであるとすれば、いわゆる少ない人員、職員で仕事をしている茂原市の職員は、少なくとも館山市の職員よりも多く余分に働いているか、いかに効率的にやっているかということになってきます。一方、当市の職員はよほど、多いわけですから、暇なのかということになるんです。変なことを言っているわけじゃない。データで言っているんですから。また、そうでなくて、当市と茂原市の職員が同じぐらい働いているとすれば、茂原市の行政サービスの水準が非常に落ちているということです。少ない人員でやっているからサービスが悪いということです、裏を返せば。

確認の意味で聞きます。さっきも言いました行政サービスの水準が全く同じであるとすれば、当市の市民課の職員は茂原市と比べると20人でできるんです。運営することができるんです。この点について御説明をいただきたい。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいまの茂原市の市民課との対比のことですが、まず事務処理体制、つまり所掌する事務がどういふことなのか、茂原市と詳細な比較をする必要があるかと思います。もう一つは、戸籍関係の事務のＯＡ化等を今後館山市においても進めることとなっておりますが、ＯＡ化の進捗状況の比較。あるいは、市民課と申しまして、出先機関等を持って、市民課の所属、あるいはそういうふうな配置になっている可能性もございます。今の段階で詳細なお答えはできませんが、一概にその職員数が多いあるいは少ないという比較は困難と思われるので、今後、市民課に限らず、比較検討をしてみたいと思っております。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） まず茂原市へ行って勉強してくれば一番いいです。今ずっと挙げました。県南8市挙げましたが、館山市が一番低いんです。一番多いんです。茂原市だけじゃなくて、君津から——これをちょっと説明します。ＯＡ化の進捗などをやっぱり視察して——他はいいです。

さらに、先ほど農水産課の職員の皆さんのことに触れました。ここに昭和60年度の機構図がございます。このときの人口が5万6,035人なんです。今より2,535人多いんです。2,535人今減っちゃっている。それにもかかわらず、このときの職員さんは同じなんです。市民課の職員は28、昭和60年、12年前も28、同じなんです、2,535人も今現在減っているのに。それで、このときに、昭和60年に市の行政改革大綱が策定された。新行政改革大綱、これが去年の3月に策定された。この中で、これまでの行政改革への取り組みの中で、昭和60年には館山市行政改革大綱を策定し、事務事業などの見直しを初め、組織機構の簡素合理化、給与の適正化、定員管理の適正化など、7項目の措置事項を掲げて云々、一定の成果を上げてきた、こう言っているんですけども、今より人口が多かったときと2,535人も少ない今と職員の数がなぜ同じなんですか。茂原との比較じゃなくて、人口が多かったときと今と同じなんです。これを説明してください。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 確かに議員おっしゃいますように、人口が減ってきておりますにもかかわらず、職員数に変化がないという事実はございます。しかしながら、人口の減少だけが行政需要と関係するわけでございせん。例えば世帯数につきましては、人口は減少しておりますが、世帯数は増加しているというような状況もございます。また、市民の行政に対する需要、希望、そういったものも多様化しております中で、職員数の増加をできるだけ抑えて現在に至っているということでございます。さらに、新行政改革大綱に基づきまして、当年度3人職員数の削減をいたしました。鏡ヶ浦クリーンセンターの設置等を控えまして、来年度もさらに定員の削減を進める予定となっております。したがって、行政需要をにらみながら、定員削減の努力を今後とも続けていくというふうに考えておりますので、御理解いただきたいと存じます。

◎議長（山中金治郎君） 助役。

◎助役（小幡清之君） ただいま60年との比較で御質問がございましたが、たしか60年にはまだ下水道課などはございませんし、それから駅周辺整備課というのも今のような体制ではございません。さらに、スポーツ振興ということで、スポーツ課も当時はまだなかったと思います。その時々によってやはり行政需要は違ってきますんで、ですから一つのセクションというよりも、総体の人員で比較してもそういうことが出てきますんで、先ほどの市民課につきましても、かつて事務改善——本間市長さんの時代だったですけれども、事務改善というのを全国でもトップでやりまして、市民課へ行けばすべて窓口業務が足りる、あちこち回らなくてもあそこで足りるんだというような体制をそのときつくるといって行っただけに、あるいはよその市で行っていないような窓口事務が館山の場合には行われているのかわからない。しかし、議員さんのおっしゃったこと、これは実際によく調査しまして、改めるべきものは改めて、合理化を図っていかなくちゃならない、これは当然のことでございます。ありがとうございます。

◎議長（山中金治郎君） 永井さん。

◎14番（永井龍平君） 今答えがありました、人口は減ったんだけど、世帯数がふえているんだとか、事業がふえたとか減ったとか、いろんな要素があると思うんです。各自治体ではいろんな要素、いろんなものがある。単に比較できない。あくまでも行政サービスの水準が同じだという仮定で僕は聞いているんですから、そういったことも出てくれば、まあまあということも考えられるんですけれども、だから——しつこくなるかな。時間ないな。勉強しに行ってもらいたいんです。

それで、適正ないわゆる定員の配置、定員の管理、それをしていかないと——僕はいつも土日にちょっと用事でここへ来るんですけれども、残業をやっている人がいるんです、結構、いっぱい電気つけて。1%、それもやろうと思ったんですけれども——陳情書通ったでしょう。にもかかわらず、全部つけている。100本ぐらいつけている、五、六人の残業の人で。そんなことも考えないといけないなと思うんです。時間ありませんから、これで……。

行政改革は本当に大変です。まだまだいろんなことに——チェックをしなければいけないこともあると思うんです。ですから、これから大変ですけれども、いろんな圧力もあると思うんですけれども、勇気を持ってこの問題について断行をしていっていただきたい、このように思います。

次に、東京湾横断道開通による質問ですけれども、まず、いろいろ言われておりますけれども、この横断橋の開通の見通しはいつになりますか。

それで、ウェルネスリゾートパーク計画、ビーチ利用促進モデル事業計画を目玉でやるということですが、以前私はビーチ利用計画で釣り公園を突堤にぜひつくっていただきたいと要望しましたけれども、またこれを機会に県に強く要望していただきたい、これを要望しておきま

す。

先ほどの横断橋の開通の見通し — 助役さんが出ちゃったものだから、ちょっと足りなくなっちゃった。じゃ、終わります。それだけ — 終わりましょう。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 東京湾横断道路の見通しということでございますが、これは市長が施政方針でも発表したとおりに、平成9年度内のできるだけ早い時期の供用を目指すということでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 以上で14番議員永井龍平さんの質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午前11時43分 休憩

午後 1時00分 再開

◎議長（山中金治郎君） 午後の出席議員数25名、休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、18番議員日下君敏さん。御登壇願います。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君） 私は、既に通告してございます問題につきまして、市長の御意見をお聞きいたしたいと思うものでございます。

今回は、去る議会初日の3日に庄司市長の施政方針を伺いましたので、その施政方針をお聞きいたした上で、それを控えて重要事項について幾つか御質問いたしたい、こういうことでございます。

その施政方針の中で、市長は海洋性リゾートタウンのまちづくりの推進ということをテーマに掲げまして、全力を傾けて推進する、こういうことをお述べになっておるわけでございまして、今回の施政方針では3本の柱を御主張なさっておるわけであります。第1が生活環境都市づくり、つまり道路、上下水道、公園等の都市機能の整備をいたすということです。第2点目が健康福祉都市づくりということで、自分の健康は自分でつくり、自分で守るという理念に基づいて、各種検診事業、救急医療体制の充実、老人保健対策の推進等々を行う。第3の柱が文化教育都市づくり、学校教育の充実、生涯学習の推進、並びにこの6月にオープンいたします千葉県南総文化ホールの助成等々を行って、生きがいのあるふるさと館山のまちづくりをいたす、こういうふう結論づけておるわけでございますが、私はそれはそれとして一応 — 来年度の施政方針をそれなりに一応の評価をいたすものでございます。私は、それを受けましてひとつ具体的にお聞きいたしたいというところでございます。

私がお聞きしますものは3点ございまして、第1点目が観光政策でございます。この観光政策

は、東京湾横断道路がいよいよ実現いたします。そうなりますと、観光政策がより一層重要性を増してくる。これにつきまして、改めて市長の御意見をお聞きいたしたい、基本的な取り組み方をお聞きいたしたい、こういうことでございます。第2点目が、漁業の経営近代化に向けまして、現在館山市内にございます5つの漁業協同組合の合併が進められておりますが、現時点においてこの合併状況がどうなっておるかお聞きいたしたい、これが第2点でございます。第3点目が、御案内のように、大型ダンプによりまして沼海岸地区からの土砂の運搬が現に今も行われておりますが、この通過地域の住民の生活に多大な迷惑がかかっておるわけでございます。この問題につきましての市の対応策をお尋ねいたしたい、こういうことでございます。

順次質問いたしますが、まず観光問題でございます。観光施策。やはり観光は、館山市は観光立市を標榜いたしておりますので、最重要政策の一つであろうと存ずるわけでございます。先ほど永井議員からも出ましたですけれども、東京湾横断道路、これが平成9年度の年内完成ができる、もう年内にこれができるわけでございます。名称も東京湾アクアラインというふうに正式決定されたようでございまして、これまで夢のかけ橋であったものが現実の橋になるということでございます。これまで海を隔てておりました神奈川県と千葉県が現実には陸続きになるわけでございますと、当然ここで人の交流が激しく行われることになろうと思います。観光客もこれはもう目に見えて橋を渡ってくるということで、南房総にとりましては、いわゆる観光を推進する、振興するビッグチャンスであるというふうに各新聞報道等でも聞いておるところでございます。でありますから、この機会にぜひともひとつ館山市の観光についての基本的な姿勢をどうしても伺っておきたいと思うところでございます。

ちょっと話が飛びますが、過日新聞報道で、千葉銀行の総合研究所という民間のシンクタンクが南房総の観光産業の活性化についてという調査レポートをまとめてございます。御案内だと思いますが、この房総をどうしたらいいかというふうに——これは大分きつい調査レポートになっております。これによりますと、この横断道の完成によって、南房総は伊豆半島と距離的にも時間的にも同じものになる。つまり、競合する観光地になる。伊豆の方は、温泉もあるし、道路も整備されておる。これは下手をすると、ここで諸施策を講じておかないと、南房総は伊豆との間にもっと明確な格差がついてしまう。観光客が来たといっても、一過性のものになってしまうのではないかと、そういう大分厳しい意見になっておるようでございまして、そして競争力をつけ、改善策を講じておかないとこれはまずいというふうなことで、ではどうしようということで3点挙げてございまして、第1点目が道路網等の、要すればインフラの整備、これを急ぎなさい。第2点目が集客施設の改善を急務で行いなさい。第3点目がホスピタリティーの徹底——これはお客のもてなし方ということだろうと思うんですが、ホスピタリティーの徹底、この3点を急務としております。そして、そういう観点から現状を見ると、官民が必ずしも一体化されていない。

民間事業は、どうも中小企業が多くて、資本力が弱くて、投資能力が乏しい。また、官の方も、これをリードしていこうというような姿がどうも見られない、本腰が入っていない、こういう厳しい意見になっておるわけでございます。

そういう面から見まして、市長の施政方針を読んでみましても、聞いてみましても、道路網の整備——これは先ほど来出ております高規格 127号富津館山道路というようなところでございましょうが、道路網の整備、またウエルネスリゾートパーク等々の施設の改善を行います、ビーチ利用促進モデル地区の工事も進みますというようなことが入っておりますが、そういうことも踏まえて、改めて——とにかく横断道がここに出てくる。それに対して、館山市長として、あるいは館山市としてどういうふうに観光について基本的に臨んでいくのか、それをお聞きいたしたいと存ずるところでございます。

次が漁業協同組合の合併問題でございますが、漁業と農業は第1次産業の代表的な産業でございしますが、いずれも経営が悪化しているといえますか、なかなか成り立ちがたいということは、これは御案内のとおりでございまして、この漁業も、漁獲量の減少とか、価格が余りうまく上がらない、あるいは後継者難ということで、経営がどうもいまいちうまくいかない、ずるずるとよくない状態が続いている、これは事実でございます。

水産庁等々も今度の通常国会に水産業協同組合法の改正法案を提出いたすようでございまして、この内容は自己資本の増強とか監視体制の拡充、こういって、漁協の体制を力強くしようということで改正案を出すようでございしますが、現在、全県的にというか、全国的に、とりあえず各単位漁協の合併を行って、その漁業協同組合の経営の立て直しをしようということで行っておるところでございます。結局のところ、時期的にはこの3月末、今年度あたりが一つの締め切りというところであるようでございまして、よく新聞報道等で漁協の合併問題を見るところでございしますが、鴨川市は、鴨川漁協と江見漁協がこれはめでたく合併の仮調印に達したということをお先日新聞報道で見たところでございますが、勝浦市に至っては、この勝浦市の最大の漁協でございまして勝浦漁協が合併を辞退いたしまして、結局は暗礁に乗り上げて、勝浦市では合併がどうも今年度できそうもないということになっておるようでございます。

さて、我が館山市は、現在5つの漁業協同組合があるわけでありまして。館山船形、それから西岬、波左間、相浜、布良、この5つの漁協がありまして、これが合併に向けていろいろ議論を進めておることだろうと思うわけでありまして、館山市も、県の御指導をいただきまして、館山市漁協合併促進協議会ということを開いて行っております。この協議会会長が庄司 厚市長でございしますので、一体この漁協の合併問題が——時期的にもう既に大詰めだと思ふんですけれども、この合併問題がどうなっているのか、合併の見通しがあるのか、あるとすればいつごろなのか、ひとつ現在の状況をお聞かせ願いたいと存ずるところでございます。こういう食の問題は直接我

々の生活に響くものでございますから、ひとつこの問題について具体的にお答えをいただきたいと存ずるものでございます。

第3点目が、沼の土砂のダンプの問題でございます。この問題につきましては、ほかの議員もそうでございます。私も何度かこのダンプの問題は取り上げさせていただいておるわけですが、この沼地区の海岸から大型のダンプカーが土砂を積んで、豊房方面の埋立地に向かって毎日運送が行われております。現に今でも行われているわけでございますが、このダンプは御案内のように大変大きなものでございますので、これだけの大型なものが沼の土砂採取場から海岸道路を抜けまして、館山栈橋の新井を上がって、下町の交差点に来て長須賀へ抜けていくということになりますが、町場を抜けていく状況でございますので、道路が狭い上に、そこに商店街あるいは住居が建て込んでおる。その中を大きな車が通っていくものですから、この通過される地域は大変な——生活上、支障を来すと言うと語弊があるまでも、大変な迷惑になっている、これは事実でございます。

このダンプの通りますところは館山市だけではございません。君津の方面でもダンプ公害ということで非常に騒がれております。これをどうしたらいいかということは大変難しい問題で、快刀乱麻のごとく、一発で解決できるという問題じゃなかろうかと確かに思うんです。しかしながら、何とかこれは話し合った上で、少しでもいい方向へ持っていかなくちならんだろうと存ずるわけでございます。

このために、平成6年に業者と地元の代表が協定を結んでおります。この業者は館山港臨港事業協同組合という——関連9社から成っておりますが、住民代表といたしまして連合区長が立ち会いまして、そして庄司館山市長が立会人ということで、市の立ち会いを受けてこの協定が成立しておるわけであります。これによりますと、定期的に、1年に1回は必ず協議をいたしましう、こういうことになっておるわけでございますが、1年に1回でもどうなのかなと思うんですが、やはりこれは話し合いをしない限り、何の方向も見出せないわけでありまして、私は本当は1年に1遍ということではなくて、問題があるごとにやった方がいいんじゃないかなということはこの間も申し述べたんでございますが、いずれにしても、何とかしていい方向を見つけにゃならんと思うわけございまして、そういった館山市のこの問題に対するお考えをお聞きいたしたいと存ずるところでございます。

庄司市長には簡潔な御答弁をお願いいたしまして、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの日下議員の御質問にお答えいたします。

第1、東京湾横断道路の完成に対応いたしました観光施策についての御質問でございますが、これは、先ほど永井議員にお答えいたしましたとおり、館山市の基本構想に基づきまして、海洋性リゾートタウンのまちづくりを推進し、通年型、滞在型のリゾート地の形成を目指しているところでございます。また、多様化している観光客のニーズを的確にとらえまして、埋もれた資源の発掘、農漁業との連携によります体験型観光、魅力あるイベントの展開など、関係団体等と協議を重ねて、館山市の地域の特性を生かした観光振興を図ってまいりたいと考えております。

なお、ちばぎん総合研究所のレポートにつきましましては、地域が一体となって取り組むべき課題が取り上げられておりまして、一つの提言として受けとめております。

次の大きな第2、館山市内の漁業協同組合の合併についての御質問でございますが、御意見のとおり、市内には5つの漁業協同組合がございます。この各漁業協同組合がおのの総会におきまして合併仮契約についての方向にございます。そして、今後の合併を目指し、現在努力をしているところでございます。

大きな第3、ダンプによる沼地区からの土砂等の運搬についての御質問でございますが、関係事業者9社で組織されております館山港臨港事業協同組合と館山地区連合区長会との間で生活環境保全を目的といたしました協定書が締結されておりまして、毎年定期的に協議が行われているところでございます。館山市といたしましても、協定の趣旨に従いまして、適正な運用が図られるよう、臨港事業協同組合を初め関係機関に働きかけてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） 大変簡潔な御答弁をいただきまして、まあまあ満足させていただいたところでございますが、そこでいま少し各問題につきまして具体的に二、三お聞きいたしたいと思っておりますので、再質問させていただきたいと思うところでございます。

私、大分観光の問題その他で多岐にわたりますものですから、今度の御答弁も本当に簡潔で結構でございます。説明等々をいただきますと、あるいは途中で中断させていただくことがあろうかと思いますが、時間の関係で御了承賜りたいと思うところでございます。

観光問題についてからお聞きいたしますが、先ほどのレポートにございましたように、道路網の整備等インフラ整備をなさ、第2が集客施設の改善をなさ、第3点目がホスピタリティーの徹底をなさという、この3項目がたまたま挙がっておりますから、私はこれに基づいてひとつ質問をさせていただきたいと思うわけでございますが、第1の道路網。高規格127号富津館山線、これは市長の施政方針の中にも大分進んでおりますよということが出ておりますが、簡単に、現在どうなっておるのか、この富津館山線が。開通のめど、部分開通その他のめどは大体どの程度のものなのか、お聞きいたします。



◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） お答えいたします。

まず、国道 127号の高規格道路の現状と、それから東関東自動車道館山線、木更津－富津間の問題だと思います。

まず、国道 127号高規格道路の現状についての開通の見通しあるいは進捗状況ということでございますが、路線全体として、用地取得については9割以上、工事につきましてはおおむね6割の進捗状況と聞いております。

なお、高規格 127号富津館山道路の竹岡インターチェンジ — これは仮称でございますが、そこから岩井勝山インターチェンジの区間11.5キロについて、早期供用開始を目途として事業が進められていると聞いております。

それから、木更津－富津間の状況でございますが、道路の中心測量と土質調査などをほぼ完了いたしまして、路線計画についての地元住民に対する説明を既に終えていると聞いております。今後は用地買収に進んでいくものと思われます。開通は、現在公表はされておられません。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） 全面開通というのはちょっとわからんですか、時間的に。

それで、それに関連してお聞きしたいんですが、せんだっての新聞によりますと、君津市にこの館山自動車道を促進するために民間団体による協議会がつくられた、これは富津に先駆けてつくられましたというふうに書いてあるんですが、この促進協議会の働きは、住民の意見を吸い上げて関係省庁等に陳情その他をする、このために促進協議会をつくったというふうに出ているんですが、館山市はこれについてどういうふうな対応をいたすつもりでございましょうか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 御指摘の君津市の館山自動車道建設対策協議会という協議会でございますが、この協議会は関係機関と地元住民の調整を行う民間組織ということで聞いてございます。館山の場合は、東関東自動車道館山線・一般国道 127号富津館山道路建設促進期成同盟会が木更津、君津、富津及び安房郡市の9市町村で組織をされておりまして、館山市長が会長として、建設促進につきまして陳情、要望活動を行っております。館山で同様な協議会を設立するということは現在考えておりません。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） それでは、これをつくるまでに至らないということだろうと思うんです。そういうことでしょけれども、強力に推し進めて — やはりどうしても道路網の整備がま

ず最優先だろうと思うわけです。それは当然わかっておることだろうと思いますが、促進方あるいは活動方をお願いしたいと思います。

館山市の問題としまして簡単に3点ほどお聞きしますから、簡明にお答え願いたいんですが、国道410号北条バイパスという、あそこのコミセンのところから、県道ですか、国道になったのかな、白浜へ抜けていくところ、あそこまでぶつかる——この国道410号北条バイパスの現況。何%どうだこうだ、買収をした云々じゃなくて、簡単に具体的に——今度文化ホールのできところはきょうから供用開始すると言ったけれども、きょうまだやっていないようであります、事ほどさように予定と現実とは狂うわけで、ですから、まず国道410号の大体の目安、それが1点。それと、今年度の施政方針及び予算を見ますと、都市計画道路青柳大賀線、これの工事を着手するとなっておりますが、どの部分をどの程度やるのか——これも簡明で結構でございます——ということ。それともう一点、いわゆる現在のバイパスができて、それが船形港へ入ってくるという路線——これはまだ予定路線に入っていないようであります、我が緑風会の忍足議員がこれは一生懸命に働きかけていると思いますが、この船形へ入ってくる線、これについてどの程度のことをやっておるのか、この3点についてお聞かせください。簡単で結構でございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） お答えいたします。

まず、国道410号線のバイパスの整備状況ということでございますが、この目安ということでございますが、用地買収の難航と文化財調査等で、今後四、五年で完成させることは困難な状況であるということでございますが、早期完成に向けて努力をしたいというふうに伺っております。

それから、都市計画道路青柳大賀線はどのような整備内容かということでございますが、都市計画道路青柳大賀線が主要地方道館山線と交差する箇所から東側に向かいまして、一部工事に着手する予定でございます。合計764メートルということでございます。

それから、127号バイパスから船形漁港を結ぶ道路ということでございますが、これは平成7年の7月4日、千葉県土木部長、館山土木事務所長に要望書を提出してございます。地元でも、地元船形地区の方々によりまして、国道127号線と船形港の直通線新設の期成同盟会ができてございます。現在県に要望し、県においても調査中であるということでございまして、この道路の必要性について期成同盟会に現状の説明会を行ったところでございますが、今後とも期成同盟会と連絡を密にいたしまして努力したい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） 今伺うと、四、五年かかる、この410号。ちょっとかかり過ぎではないか。例えば文化財について、あの辺は文化財が出るわけがないから、もう少ししっかりやった

らというような話もあるわけ。ですが、いずれにしても、県道昇格しても — 県事業にして四、五年ということですよ。だから、館山市の都計線でやったら、これはもっと時間がかかった、ないしは不可能じゃなかったかなと思うわけです。

そうすると、第2点目の都計道青柳大賀線も、これは館山市だけでは — 今言うように 410号が4年、5年ですから、始まってもう七、八年、ですからまた10年、15年になるから、都計線も県事業としてやってもらえないかというふうに持っていくような意思はございませんか。持っていく方向を考えられませんか。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 都市計画道路の青柳大賀線の件でございますが、現在 764メートルに対しまして、国の緊急地方道の整備事業ということで、補助金をもらってございます。今 410号も進めているところでございまして、この 764メートルについては市がやらきゃならん、そのように思っております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 18番日下さん。

◎18番（日下君敏君） もうちょっとお聞きしたいんですが、観光をいろいろな面から聞きたいものですから、これはこれで留保して……。

次に、集客施設の改善です。これが一番大変で、お金のかかることだろうと思うんですが、現在館山市へ来る観光客が大体年間 170万前後ということです、そちらの資料を見ますと。日帰り客がふえていまして、60%ぐらいが日帰りになって、日帰り客が年々ふえているわけです。そうということの中で、館山市としては海洋性リゾートタウンのまちづくりということで通年滞在型へ持っていく、これは大変 — この辺が言っていることとやっていることが大変 — どこで調和させるかということだと思うんですが、この横断道ができれば、当面今ある既存の施設の整備をしなくちゃならん、こういうふうに思うわけです。

そこで、平砂浦海岸、イチゴ園、こういうことの整備を、簡単でいいですが、どの程度のことを考えておるのか、お聞きいたしたいと思います。

それと、既存の整備の中で公園整備というものもやはり大変だろうと思うんです。必要だろうと思うんです。例えば城山公園なんていうのは、私は大変な観光施設の一つだと思うんです。現にあそこへ行きますと、2時間、3時間、上手にすれば半日でもいられるんですけども、私が見た限りでは、どうも保守管理がいまいっしょにされてないんじゃないか。せっかくしっかりした木が植わっていても、どうも生えっ放しになっていたり、あるいは、万葉の径というなかなか文化的なことを前市長時代にやったんですが、その万葉の径を見に行っても、銅板が確かにあって、そこに歌が書いてあるんですが、何かが書いてあるのかさっぱり字が見えないし、そして

そこに植えてある万葉の植物というのは一体どんなものかさっぱりわからんし、あるいはまた、あそこには犬を入れないでくださいというふうに書いてあっても、どんどん犬は入ってくるしということで、保守管理が大分なっていないと思うんですが、そういった既存の施設の整備について、簡単で結構ですが、どういうふうに思っているかお聞かせください。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） まず第1点目の平砂浦海岸の整備についての御質問でございますが、これは県におきまして、あそこにございます野鳥の森、さらには南房パラダイスのリニューアルないしは整備拡充ということを考えているようでございます。市といたしましては、駐車場、それから休憩施設等を備えました——トイレも含めましてでございますが、施設整備を進める考えでございます。将来的には遊歩道というようなものを視点に入れて整備を進めてまいりたい、このように考えております。

それから、イチゴ狩りでございますけれども、年々入園客がふえまして、去年は21万人、今年度はそれを上回るペースで動いているわけでございますが、量的な部分に問題があるわけでございます。市といたしまして、過去そういう施設園芸——ハウス等でございますが、これは県事業でございますが、県、市で助成をしてふやしてきているという部分もございますし、あその駐車場の出入り口の整備とか、そういう面で市としても助成はしてきているわけでございます。引き続いて考えてまいりたい、このように思っております。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 城山公園の関係でございますが、まず施設の管理はどのようになっているかということでございますが、城山公園の維持管理につきましては、委託による管理と、それから直営による管理を行っております。高木の伐採、剪定等については委託、あるいは通常の手入れ、低木の伐採、給水、除草については直営でやってございます。

それから、万葉の径の植物がないという御指摘でございますが、一年生のものや、枯れたり、あるいは盗難等がございますので、毎年補修をしている状況でございます。一部、冬に根が枯れてなくなっておるということもあると思います。

それから、プレートの字が見えないということでございますが、材質は銅製で、9年が経過してございます。一部、腐食により判読できないものがあるかと思いますが、補修について考えております。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） 城山で言いますと、もうちょっと言うと、第3点目のホスピタリティーにかかわるんですが、せっかくあれだけの日本庭園があるわけです。この日本庭園は、今オープンにして、各茶会その他をやるというときは当然貸し出していますが、私は、土日、祝祭日等

々、そのときはお茶を振る舞ったり ― 有料でもよかろうと思うんだ。そういうこと、お客のもてなしをもっとオープン化すべきだなと思います。簡単でいいですが、それと犬と、その2つ、ちょっと答えてください。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） まず、犬の散歩対策でございますが、看板の設置、あるいは広報や犬の予防注射文書によって呼びかけてございます。今後とも引き続き注意をしていきたい。これはモラルの問題ということもございまして、今後とも呼びかけてまいりたいということでございます。

それから、茶室の利用につきましては、今のところ検討はしてございません。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） この茶室はえらい金かかったわけです。庭園も確かに立派です。ですから、これはより多くの観光の人に見せても恥ずかしくない施設ですから、これは日曜その他に矢がすりを着たきれいなお姉様が茶菓子の一つも出してやれば、これは大変なホスピタリティーでございますから、この辺のことは役人感覚ではわからんかもしれませんが、ひとつこれは前向きに検討していただきたい、こう思います。

施設の中長期的な観点で ― 今までは現実問題として、中長期的観点として、この館山市がいつも挙げるのはビーチ利用促進モデル事業とウエルネスリゾートでございます。これも簡単で結構なんでございますが、現在行われているビーチ利用促進は、北条海岸を中心に、2.3キロメートルのうちの1.8キロメートル、つまり安房西高の海岸から向こうサイド、那古サイドの湊川のところまで ― これはお聞きするところによると、平成12年度までに第1期工事として完成させ、そしてその12年がたつと、そこに突堤が2カ所できる、こういうことでいいんですね。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） おっしゃるとおりでございます。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） そうすると、それはそれで次の第2期工事に入っていったって、第3期工事までやるんですか。それによって、我々にPRされておりますようなものになる、こういうことだろうと思うんですが、2.3キロのうちの残りの500メートル、つまり西高から館山栈橋までの500メートルの間、これが、範囲に入っているけれども、別途構想ということで除かれているわけです。そういうことですね。

そこでお聞きすると、別途構想というのは大体海上輸送を生かしましょう、こういうことだと思うんです。これまた聞いていると長くなってしまうから、時間がございませんから ― 海

上構想等の構想である、こういうことでいって、別途構想なるものはいつごろから現実に入るのか。もし入ると、あそこの整備も行われる。海岸道路から上は、要するに汐入川から館山栈橋の間は、あそこにレストランがあるほかは全部官有地のわけです。簡単に言うと、水産学校等の施設がある。これでは、観光産業を行う上で、観光振興を行う上で、あそこは結局何も使えないということになりはしませんか。だから、これは将来的には水産学校等々の移転も視野に含めてやらなくちゃならんだろうと思うんですが、その点についてもお聞きいたします。簡単で結構です。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 2.3キロと 1.8キロの差の 500メートルでございますけれども、これはおっしゃるとおり、シーゲートゾーンという形でもって、海上交通の拠点として整備をしていくという方針であるということで伺っております。現在県の方でその需要調査を始めているところでございます。

水産学校等の移転でございますけれども、これは県の教育施設でございますので、いろいろと教育方針等もありますので、御提言として伺っておきたいと存じます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） この水産学校、これは大変な施設でございますが、観光振興という面から見ると、そういうことも現実問題として、事実としてちょっと研究をしていかなくちゃならんのではないかなと思うわけであります。

ウェルネスについてお聞きしたいんですが、これは企業進出の問題で促進協議会をつくるということですから、それはそれで次の機会にまたお聞きいたしたいと思います。

観光施設として観光物産センター、これをつくりますよということを大分前から言っております。つい最近では商工会議所が陳情したようでございますが、この物産センターについてどうなっておるのかお聞きいたしたい。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 観光物産センターにつきましては、9年度早々から市、それから商工会議所 ― これは土産物まつり実行委員会の方々も含むわけでございますが、まず立地条件とか、例えば将来的な収支の問題、事業主体の問題、その辺の基礎調査を始めて、ある一定の時点で建設に向けての組織づくりを進めてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） そういうことで、観光施設の整備、これは大変お金もかかるわけですが、これもやはりどうしても進めなくちゃならん問題だろうと思うわけです。

新しい観光資源の開発ということで申せば、いろいろこの議会でも問題になっております稲村城址、これは私は、やはりこの保存をいたして新しい観光資源としてやるべきだ、こう思っております。歴史、文化を守ることが一国の文化の高度を示すというなら、館山市もこういう歴史的なものを残すということが薰り高い文化を誇る館山市の生き方ではなかろうかな、こう思うわけであります。

それと、観光施設の中で鳩山荘の問題ですが、この鳩山荘についても民間委託すべきだ。あれを市の役人の方が支配人をやっておったんでは、これはもうお客に対するホスピタリティーなんてできません。ですから、これはやはり民間に委託する方向に持っていくべきであると思います。これは御意見ありません。

それと、イベントの中で、国際トライアスロンというのが千倉から鴨川、天津で行われるということで、館山市が外れた格好になっております。これは来年の10月に開催されるそうですが、館山市がなぜ外れたのか、いろいろお聞きしたいんですが、時間的な関係もありますんで、これは館山市とすれば、当初やる予定だったんですか、そうじゃなかったんですか、それだけちょっとお聞かせください。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） トライアスロン大会につきましては、関係団体等に打診をいたしまして検討してまいりましたけれども、交通規制の問題、あるいは監視体制、ボランティアの動員等、いろいろ問題点が多いということで、見送ったということでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） ですから、そうなるとじゃ鴨川はいいのか、こうなるわけあります。時間の関係もございますので、そういったことはまた委員会なりその他でお聞きいたしたいと思えます。

最後のホスピタリティー、お客のもてなし方、これが一番大変な問題だと思うんです。やはりどこへ行っても、観光施設より何より、人情ということが一番印象に残るわけでございますから――これはもう教育の問題でございますが、ホスピタリティーについては、これから教育を――これは役所ということではないと思いますが、やっていかなくちならんだろうと思えます。

時間の関係で次に移りますが、漁協の合併問題ですが、合併するメリット、これは端的に言うて何だということ。それと、一体現状で合併できるのかどうか、簡単にお聞かせください。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 合併のメリットでございますが、これはいわゆる経営の安定化ということでございまして、将来の近代化に備えるということでございます。

次に、合併の成否でございますけれども、現在各漁協においていろいろ努力されているということで、市長答弁にもございましたように、9年度内の合併に向けて進められている、こういうふうに認識をいたしております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） お聞きするところによると、合併後の漁業権が大変な問題だろうと思うんですが、漁業権というのは合併後も合併前も変わらない、こういうことなんですね。そういうことですね。だから、今まで行使している漁業権は他の単位漁協からは侵されない、独自の今までの漁業権は確保できるんだ、こういうことでいいわけですね。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） そのとおりでございます。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） 各単位漁協が持っております赤字というか、借金というか、これは合併を前提とすれば、信漁連などから借り受けられて、各単位漁協はきれいな体で合併できる。きれいな体というのはおかしいですが、合併できる。そのかわり、その債務は各単位漁協で返していくんだ、こういうことでいいんですね。いいか悪いかだけ。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 今御質問の件につきましては、旧組合で処理する方向で進められている、こういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） 現在、館山船形漁協が前組合長との間で訴訟を行っております。また、前組合長も訴訟を漁協にしておるようでございますが、この訴訟問題が――仮に合併いたしましたしますと、これは合併後の漁協に移るのではなくて、旧単位漁協で行っていく、こういうことですね。そうであるかどうかだけ。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） そのような気がします。

◎議長（山中金治郎君） 日下さん。

◎18番（日下君敏君） そうすると、漁業権はそのままありますよ、借金も各旧単位で返しますよ、問題となる訴訟も旧単位で行いますよということならば、ネックになるところがなかろうと思うわけ、我々が表面的に見ますと。しかし、現実にはできない。これは私の聞くところによると、ちょっと時間的に間に合わないんじゃないか。3月末までにこれを決裁しておかないと、いろいろな保護策といいますか、優遇策というか、そういうものがもらえない。そうすると、事



務的な — 時間がないので、事務的なことを聞きませんでした、どうしても2週間やそこらは事務的手続でとっておかなくちゃならんとすると、13日から15日ぐらいまでに仮調印に達しないとやっていけない。となると、今の御答弁は努力していますよと言うけれども、しかし現実はどうも厳しいものであろうかな — 御答弁は要りませんが — と思うわけですが、しかし経営近代化のために必要ですから、スローリー・バット・ステディーで、確実にひとつその方向に進んでいただきたいと思います。

時間がございませんので、ダンプの問題でお聞きいたしますが、前回私は去年6月にお聞きした。それによると、とにかく住民サイドの話し合いもしましょう、館山警察署と協議もいたしましょうというなかなか口やわらかい御答弁をいただいておりますが、その後の状況と、会議については、やはり館山市が率先して、リードしていただかないと、行政指導していただかないとなかなか難しいんだらうなと存ずるわけでございますが、その辺も含めまして御答弁をいただきたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 昨年も、6月ですか、御質問いただきまして、協議会のそういう話し合いももっと回数を、また地区の構成 — いわゆる地元の区長さん方ですか、もっとふやせというような、そういう御質問がございまして、その方向で協議会の方に話しますということでした。その後、開かれておらないというのが実情でございまして、近々、この4月に開催されるということでございますので、その辺また改めて申し入れたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 以上で18番議員日下君敏さんの質問を終わります。

次に、12番議員植木 馨さん。御登壇願います。

（12番議員植木 馨君登壇）

◎12番（植木 馨君） 既に通告いたしました2点についてお伺いをさせていただきます。

第1点といたしまして、神余地区産業廃棄物投棄による被害惨事についてであります。この質問は、会派の代表質問として受けとめていただきます。

昨年の暮れも押し迫った12月28日朝7時30分ごろ、神余地区の住民より、センリョウ畑が産業廃棄物により全滅になり、自分たちの手ではどうにもならないので助けてほしいとの通報に接しました。直ちに現場に急行、その惨状を見て、こんなことがあってよいものかと、強い怒りを感じずにはいられませんでした。この事態は一人で解決に動くべきではないと判断、正月の三が日を過ぎ、1月4日、装備して沢の下から沢伝いに — 投棄現場まで約500メートルぐらいの間をカメラにおさめ、その現状を私たちの会派に申し出、解決策の相談をいたしました。会派では快く受け取っていただき、1月8日現地視察を実施し、事態の重さを受けとめてくれました。協議

の結果、まず、市当局はこの事態を知らないだろうから、直ちに現状報告をし、改善策を求めるべきであるとの結論に達し、1月10日、市側に現状写真を添え改善策をとるよう要望してまいりました。その後、2月6日の第1回の回答では、経過報告にとどまり、何ら具体的な改善対策が出されておらず、愕然といたしました。

今後の気象状況は予測できません。これを放置し、次に豪雨に見舞われたら、民家地点まで廃棄物が土石流化して押し寄せる可能性はだれの目から見ても予測できます。第2次、第3次災害が起こったら、大変な事態になりかねません。事故発生以来6カ月が経過しているにもかかわらず、復旧作業に取りかかる気配さえ見えません。一体その後の進展状況はどうなっておられるのか、市は環境保全、巴川河川管理者としての立場から県並びに業者にどのように対処していくのか、また住民の被損害等の問題に対しどう検討、支援していくのか、お伺いいたします。

さらに、安房支庁管内の不法投棄の現状を調査いたしましたところ、管内におかれましては、平成7年度は2件、館山市の場合は、このような被害惨事が起きておるにもかかわらず、不法投棄ゼロ件という数字は一体どうなっているのでしょうか。不法投棄に対する監視や防止に対する対策が全くできていなかったからこのような事故が発生したものと思われそうですが、いかがでしょう。このまま放置しておいたら、たくさんのダンプの間にまじって、気がつかないうちに市内の山林あちこちに投棄が広がり、産廃銀座と化すことも考えられます。このような事態を防ぐためにも、館山市独自の厳しい産廃条例等の検討をすべきであると思いますが、市当局の前向きな御回答をお願いいたします。

次に、大きな第2点は農業政策の見直しについてであります。小さな1としまして、観光農業についてお伺いをいたします。本市は、三方を海に囲まれ、気候温暖な自然環境に恵まれた、首都圏近郊から見れば、観光に最もよい立地条件にあります。主要幹線道路整備のおくれていた南房総も、東京湾横断道が本年度中に開通の見通しがつき、東関道館山線も早期完成を目指し工事が急がれています。一方、本市にとりましては、観光拠点としてのウェルネスリゾートパーク計画、館山湾ビーチ利用促進モデル事業や、西口整備に合わせ、橋上駅舎着工、完成等が順調に推進されますと、おくれをとっていた観光振興に大きな期待が持てることになります。今までの観光客の実態は、見て遊んで通り過ぎるといった、市民経済に対する波及効果の少ない観光状況であったと思います。今こそ経済的波及効果をねらった受け皿づくりに政策面で真剣に取り組むときではないでしょうか。

観光農業は、市の観光政策の中で魅力の一つではないかと思います。しかしながら、観光農業の現状はどうでしょう。花をメインにキャラバン隊を首都圏に繰り出し、誘客の手段として花の館山をイメージアップさせようと観光宣伝活動を毎年しているようでございますが、花摘み園として売り出した――布沼、坂井地区を中心とした花摘み園も閉鎖、今残っているのは布良ゲート

跡のJA経営の小規模花摘み園、ファミリーパークの花摘み園のみとなり、寂しい限りです。現在はすっかりお株を白浜、千倉、和田町にとられ、花の館山は消え去ろうとしております。観光客が毎日訪れ、にぎわっているイチゴ狩りのみであります。そのイチゴ狩りも、後継者不足と、さらに地域経営体そのものが高齢化が進み、将来継続していく見通しがつかないと伺っています。このような状況下にあって、今後観光流動人口がさらに増加が予想されるとき、将来を見据え、どのように観光農業の振興、拡大を図っていくか、観光農業政策の取り組みについてお伺いをいたします。

小さな2点目は、時代の変化に対応した個性ある農村の創出についてであります。本市の個々の農業経営体は、高齢化、兼業化が進み、さらに後継者の減少、減反政策の強化等、農業経営の将来に不安と、魅力を失いつつあります。このように、農業を取り巻く環境は厳しい局面を迎えていることは既に御承知のことと思います。時代の変化に伴い、農政に悩みを持つ日本各地の自治体は、個性ある農村の創出に新しい政策を生み出そうと懸命の努力をしている報道が目につく今日であります。本市にとっても、この解決策は重要な課題であり、農業政策の懸案事項であると思います。農業政策を十分見直し、時代の変化に対応した個性ある農村の創出をどのようにお考えになっておられるのか、お伺いをいたします。

次に、小さな第3点は、農業経営の合理化を目指すための農業公社設立についてであります。基本計画では、地域の特性を生かした効率的、安定的な農業経営の創造を目指すとされていますが、現在農家は、高齢化、後継者の減少、減反政策の強化等、さらに農業機械の過剰投資等で、どれをとっても頭の痛いことばかりです。したがって、農家の実質収入は減少しつつあるのが実態です。まず、いかにしたら農家所得の増大が図れるか、農業全体の体制づくりと、農業に活力を与える魅力ある農業政策を考えていただきたいと思います。昨年、後継者対策の中で農業公社の設立の御提案を申し上げましたが、21世紀に向けての農政の一環として、農業機械の過剰投資の解消や、専業農家が基幹作物に集中できるよう、農業経営の合理化を目指すため、農業公社を設立し、農作業受託事業の展開を図るとともに、本市の立地条件、特性を生かした農業振興事業を推進していくべきだと思います。市当局の意のある御所見をお伺いいたします。

御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの植木議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、神余地区産業廃棄物投棄についての御質問でございますが、産業廃棄物につきましては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づきまして、千葉県により指導、監督が行われているところでございます。今回流出いたしました建設廃材等の廃棄物につきましては、現在、

監督官庁であります館山保健所により、土地所有者に対し、廃棄物の処理について指導が行われているところでございます。館山市といたしましても、現地の状況を確認し、廃棄物の撤去と災害防止につきまして、館山保健所に一層の業者指導をお願いしているところでございます。

次に、今後の防止策についての御質問でございますが、産業廃棄物につきましては、先ほど申し上げました廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づきまして、県が指導、監督する権限を有しておりますので、館山市条例の制定はできません。

次に、大きな第2の第1点目、観光農業は拡大政策をとるべきではないかとの御質問でございますが、観光農業は今後の重要な観光資源として認識しております。農業関係者との話し合いの中で、よい方向性を見出していきたいと考えております。

第2点目の農政の見直しをすべきではないかとの御質問でございますが、農業は館山市の重要な基幹産業でございます。しかしながら、他産業と同様に、人口の高齢化、少子化など、国政レベルでの社会構造の急激な進行に加えまして、国際的なウルグアイ・ラウンド農業合意などの大きな波も加わり、厳しい状況となっております。農政の方向につきましては、国、県の諸施策を踏まえまして、地域の特性を生かしました農業経営体の育成、確保を目指していく考え方でございます。

第3点目の農業公社の設立に関します御質問でございますが、農業の担い手確保対策につきましては、稲作を中心に規模拡大志向農家や農作業受託組織の育成を目指すため、関係機関、生産者組織とともに取り組んでいるところでございます。

なお、御提案の農業公社の設立につきましては、現在のところ考えておりません。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 12番植木さん。

◎12番（植木 馨君） 廃棄物についてでございますが、この神余の廃棄物の投棄でございますけれども、これは県の許可を得て行われたものか、調査してあったらお聞かせいただきたいと思っております。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） この処分場につきましては、県の許可等は受けておらないということでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） 許可を得ていないでこういうことをやるということは、このような被害が出たわけでございますので、これは完全な犯罪であるというふうに私は、また会派でも考えているわけでございますけれども、この点市側はどのようにお考えになっておりますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先ほど御答弁で、処分場として許可を受けていないというふう  
に御答弁申し上げたんですが、これはいわゆる処分場ということではなくて、たまたま所有地に  
そういう不法投棄がなされた場所、こういうことでございます。そういうことですので、所有者  
が、所有している人がそこに産業廃棄物を捨てたものではなくて、所有以前から不法に投棄をさ  
れていた場所だ、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） 以前に捨てておったといっても — 今、市長のところへ私は写真をお  
持ちしてあるわけですが、要するに捨てた場所、それがその写真の中へ入っておるわけ  
です。これは要するに、その捨てたところがブルで押されて平らになっておるわけですが、  
これは俗に言う — 生コン業者では汚泥と言うそうでございます、あの白いやつは。これは、生  
コンのあれを洗うときに出てくるかすがそういうふう — たくさん出るわけですが、そ  
れを処分する場所がないということで自分の土地へ埋めたんでしょうけれども、これは市の方  
で、残土条例だとか、そういうものを今度は厳しく制定しようというときに、こういったもの  
は建設残土とは違って完全な産業廃棄物ですから、これに対する規制をとにかく市としては何も  
考えていない、野放しにしてある。県でもこれに許可を与えていないということであって、これ  
も野放しです。一体 — 自治体です。県にしても市町村にしても — 館山市の場合は、これを野  
放しして、それでいいものだと思いますか。どんなふう考えておりますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 野放しにしていけないかという御質問でございますが、産業廃棄物  
の問題につきましては、先ほど市長が答弁申し上げましたように、これは県の指導監督下にある  
わけございまして、そういう意味で、今回のケースにつきましても、県の方に私どもからも申  
し入れましたし、一緒に現地も立ち会っておりますし、しかるべき善後策等についても県に協議  
をしながら、県のいわゆる指導のもとに対応を進めている、こういうことでございます。

それといま一つは、今回のお話ですと、9月の台風のとき相当な量の降雨がありまして、それ  
以降ああいう状態になった。それ以前にあそこには不法投棄というようなことがございまして、  
保健所の方で9月の3日に現地を確認をいたしまして — これは大雨が降る前でございまして、  
散乱ごみがあったということで、業者に保健所の方で撤去を指導いたしまして、撤去を保健所  
の方で確認をしていた。その後、9月22日の大雨で、当時は隠れていたそういう廃棄物が下流に流  
された、こういう実情でございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） 実を言うと、それは自分の土地であったかもしれないけれども、冷蔵庫だとか洗濯機だとかテレビだとかリヤカーだとか自動車だとか、いろんなものが——トタンから何から、ビニールも、全部捨ててあるわけですから、その上、俗に言う汚泥というものの、それからコンクリートを砕いたものとか、そういうものも入ってまして、それがどんどんダンプで押されて、上からちょうどあんびんのようにかけちゃってあるわけ。これは、あれだけの大雨になれば、どうしてもそのものが一緒に——とにかく、捨てられてあった冷蔵庫だとか洗濯機だとか、そういうものとトタンとかが一緒になって今度流れたわけですから、だから——その流れたときの現状を私は見ておりません。部落の人たちも見えていないと思うけれども、恐らく想像では土石流化して流れてきたんだらう。沢の両側の山をどんどん削っていますので、あれは完全に土石流の形です。そういう悲惨な被害が起きているわけでごさいます、これを県の指導下であるからということで県にお任せする。県の方だって、いまだ事業に、この対策に対して——相談しているかもしれないけれども、実際その撤去する作業に取りかかっていないということはどうか。私はまだそれに直接関係していませんので、市側がそれに対応している、関係していると思いますんで、今県の方は——ただ指導じゃないです。すぐ作業にかからなきゃ、今私が質問申し上げたとおり、第2次災害が起きる可能性があるわけですから、これに対する関心を持った県との話し合いをどうなされてきているか、その点をちょっと伺いたします。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 指導という言葉で、もうちょっと——指導じゃないよ、もっと先の話だよということでございますが、私どもの方の言葉の使い方が悪かったと思いますが、その中には当然——同じような災害が二度あるということは、これはもう絶対避けなきゃいけないことでございますので、まずその防止、それから既に流されている廃棄物の撤去、それを含めて、業者の方にその対応策を申し入れるというようなことについて、保健所の方に私どもの方から申し入れをしている、こういってございます。保健所だけに任せるということではございませんで、私どもも保健所と同じ立場に立ちながら答えを導き出していきたい。ただ、先ほど申し上げましたように、産業廃棄物につきましては県がイニシアチブをとるべきものでございますので、私どもの方としては、私どもの方の要望を県の方へ出しながら一緒に解決策を考えていきたい、このように思っております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） 今度国の方でもこの産廃の規制に関する法律が決まるようでございますけれども、これも相当厳しい内容であろうかなというふうに期待はしているんですけれども、

実を言うと、やはり館山市で起きた問題でございますんで、痛手をこうむっているのは館山市なんです。または地域の住民なんです。ですから、いつもやっぱり監視体制というものはとっておかなきゃいけないわけなんです。それは保健所にしたって、市だって環境保全課というのがあるわけですから、そういう監視体制をずっととりながら、もしそういうふうな不法投棄がされておれば、こういう災害が起きないように防止対策を指導しておくべきだったんです。こういうことをしていないということは、県にしたって市にしたって、行政が怠っていたというふうに私は解釈しているわけですが、そうとにかくとられてもいたし方ないですね。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 不法投棄の防止につきましては、市としても全くパトロール等をしていないということではございません。ただ、範囲が広いというようなこともございまして、結果的には対応し切れていなかったという事実は、これはそのとおりかと思います。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） パトロールをしているとか、そういうことをおっしゃいましたけれども、今館山市は産業廃棄物の投棄がどこどこになされているか、それを調査したことはございますか。もしあったらお願いします。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 確認はいたしておりません。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） そのようなことから困るんです。あなた方にそういうことをちゃんと監視して手を打とうという、そういう考えがないから今度のこういう問題が起きているんです。現に今、藤原のもののし尿処理場の上ですか、あそこへ行ってみなさい。自動車だとか冷蔵庫だとか、どんどん落とされているじゃないですか。道路から見たって見えるじゃないですか。私はこの間あそこまで入って行って見て、写真も撮ってきました。それからもう一つは、竹原の小高造園のあの奥、あそこへもこの間行って、写真も全部撮ってきました。廃棄物が埋められた上から泥だかコンクリートみたいなのをどんどん、どんどん — もとの休耕田を埋めているんじゃないですか。そういう実態をあなた方はつかんでいないで、何でこういう取り締まりができるんですか。

だから私は館山市としての独自の厳しい産廃条例をつくったらどうかということを御提案申し上げたわけだけでも、国や県がやっているから、館山市としてはそういうものをつくる必要はございませんという御回答でしたけれども、つくってつukれないわけがないです。そうでしょう。今までの残土の問題だって、館山市で要するに条例の改正をしようという — これには厳しい条

文が今度ほうたわれている。これは本当に——今市民がこの残土の問題に対して強い関心を持っているときに、条例改正というものはまさに時を得た条例改正じゃないかと、これは私は高く評価しています。国の法律があって、それから県の条例があって、市の条例があるでしょう。この産廃に対する条例が、それがやれないということは、私はそんなことはないと思います。川名議員もおられますけれども、浄化槽の条例にしたって、国の一定の基準というのがあるって、それで今度は県の実情に合った条例をまたつくる。市町村は、子供の海だとか磯根をとにかく荒らしちゃいかんということで、浄化槽条例だとか、そういうものが——各市町村によって厳しい条例をしいているんじゃないですか。それが今の部長の御回答では、答弁では、県がやっているから館山市はそれをする必要がないという、これはちょっと私は納得できないけれども、その点もう一遍。さっき言ったのはよく調査したことなんですか、できないということで確認して今答弁なされたんですか、その点ちょっとお願いします。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） これは、先ほど市長答弁にありましたように、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の中で、産業廃棄物の処理計画については、千葉県知事の指導、監督ということが法律にうたわれているわけでございます。そういう意味で、市にそういう監督権限はないわけでございますので、条例はできない、こういうことでございます。

それから、今産廃条例というふうに議員はおっしゃっておられますけれども、いろいろ実例を挙げられましたが、不法投棄を何とか未然防止するための条例、こういうふうな意味でございましょうか。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） もちろん不法投棄をとにかく未然に防ぐ。防ぐためには、いろいろな罰則もあるでしょう。監視員の配置というのものもあるでしょう。いろんな形でこれを守っていかなくちゃいけない、環境保全をしていかなくちゃいけないわけですから、そういう条例は市として独自につくっていくべきだ。それでなきゃ、手の打ちようがないじゃないですか。これをぜひひとつ検討していただきたいということです。これは要望としてお願いしておきます。

それから、今度の産廃被害によって、センリョウ畑が全滅になっちゃったわけですが、これに対しては、関係業者の方から40万円の見舞金を持ってきた、預かっているということで、これはいつでもお返しする。だけれども、その方は、ことしとにかく売ろうとしたセンリョウが売れなくなっちゃった。去年は80万ぐらいの売り上げをしたそうでございますけれども、ことしは——相場によっていろいろな変動があるかもしれませんが、1年や2年の問題じゃないんです。センリョウというものは、少なくとも10年ぐらいは一応切り取りができる。それでまた植えかえしていくということでございますので、これから先の見通しとか、そういうものが一切立たない、



もう恐らくだめだろうというような、そういう考え方を持っていますけれども、これに対してやっぱり——市民を守るわけですから、そういうことで、市がやっぱりそれに対してよく検討して、市民側に立って、この損害の支援というか、そういったものをしていくべきだと思うけれども、その点どう思いますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 法律的にどうのこうのということを申し上げましたけれども、あくまで市民がそれだけ迷惑を受けているという事実は私どもも十分認識しておりますので、市としてできるだけことはやらせていただきます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） じゃ、この件に対しては、とにかくこの被害惨事を早く撤去させるということにひとつ全力を傾注していただきたいということと、今言った市民の擁護ということで、損害問題に対していろんなことがあろうかと思いますが、それに対してはひとつ十分な支援を賜りたいと思います。

じゃ、次に観光農業政策についてでございますが、これの再質問に入る前に、布沼、坂井地区の花摘み園を閉鎖した原因というものをお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 布沼、それから坂井地区の花摘み園の閉鎖でございますが、この事業は、昭和48年度に事業実施されました自然休養村事業のいわゆるソフトな部分といいたしうか、都市の住民との交流のための一つの事業として実施されたわけでございます。花摘み園が開園されてから長い時間が経過しているわけでございますけれども、そういう花摘み園として運営するための労力の問題とか、いろんな部分で難しい、一応年数もたったというようなことの中でやむを得ない部分もあった、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） 今部長から言われたように、自然休養村事業としてやられた。そもそもこれは観光事業の振興対策としておやりになったと思うんです。それで、この当時やるときは、約4,000万事業資金として——道路の舗装とか、いろんなのがあったと思います。それから、神戸の農協のところの休養村事務所ですか、そういったものを設置したとか、いろいろなことがあって使われたと思いますけれども、いずれにしても、この坂井地区の花摘み園の閉鎖の原因というのは、部長もおっしゃいましたけれども、そういういろんな要素もあったかもしれませんけれども、各農家が基幹作物に対して、この生産事業に対して、また出荷等に対して、人的不足

というのが、これが大きく起因している。それで、花摘み園の方へその労働力を向けるのは採算が合わないということで、閉鎖をしようじゃないかということに至ったという話も聞いているわけですが、こういったことを現に私も聞いたときに、税金のむだ遣いをやったなとか、そういうふうな感じを受けたわけですが、この点は間違いはないようですか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） この自然休養村事業を地区で導入しましたのは、いわゆる基盤整備——ほ場整備でございます。これが通常の事業で実施をいたしますと、20ヘクタール以上の面がなければ事業採択されない。館山市につきましては、野菜産地の指定を受けているということから、10ヘクタールでも採択できるというのが一般的な——いわゆる団体営というほ場整備事業の採択条件でございますが、この自然休養村事業を導入しますと、1ヘクタール以上——いわゆる10ヘクタール未満であってもそういうほ場整備が導入できるということ。やはり当時、当然転作というような部分の義務づけもあったわけですが、そういう中でそういう観光農業というような部分も期待できるのではないかなという考え方の中で事業が実施をされたわけでございます。したがって、税金のむだ遣い——今の段階でそういうソフト事業は中止ということでございますので、そういう一面もあろうかと思いますが、いわゆる基盤整備がされたほ場は非常に高度に利用されている、そういう現実もあるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） わかりましたけれども、いずれにしても、今私の言った人的不足という、そういうあれにちょっと御回答なかったわけですが、私はこれを受けとめております。

とにかく今この観光農業が悩みを持っているというのは、やはり後継者不足といいますか、そういうものが大きなネックになっておるわけで、これは観光農業にしろ、個性ある農村の創出にしろ、人材育成といいますか、担い手育成といいますか、そういうものが大きなネックになっていると思いますので、行政としてこういった点をどのようにお考えになっておるか、お伺いいたします。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） その花摘み園が人材——私、先ほど労力的な部分というふうなことでお答えをいたしましたんですが、御承知のように、館山市の花卉生産はいわゆる生産農業というようなことで、一定面積で一定の施設を持って、一定の量を生産して市場に出荷する、いわゆる生産農業という面が強いわけでございます。先ほど議員のお話に出ました白浜、千倉の方につきましては、もともとそういう生産農業志向がそんなに強くはない。要するに露地栽培で、

田の裏作等で行われてきた花栽培であったわけでございます。したがって、そういう観光の花摘み園に非常に変換しやすい環境にあったということが言えるんじゃないかと思うんです。したがって、今回の自然休養村事業によります花摘み園のやむない中止でございますけれども、要するに自分たちの生産農業に花摘み園を運営しておりますと影響が出てくるというようなことから廃止になったという一面もあるわけでございます。そういうことで御理解いただきたいと思っております。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） この問題もこれから――農業公社等、いろんなそういう関連したことでまた触れていきたいと思っておりますけれども、いずれにしても、いろいろな手法、そういったものが考えられるわけでございますけれども。

次に、個性ある農村の創出の件でございますけれども、これはこれからの農業政策の中で、私は真剣にやっぱり考えていかなきゃいけないなというふうに思っています。先ほどの御答弁では、そういういろいろな、具体的なことも出ておりませんので、私から一言だけ述べさせていただきますけれども、これは、山梨県の明野村という村があるわけですが、ここの村の大柴邦昭という村長が、若者の去った村は過疎化になる、生産の場としての機能を失う、これに非常に関心を強く持ちまして、まず農地の基盤整備を進める中で、従前どおりの換地とか、そういった問題はもう意味がない。これからは作目別、用途別の団地化を図っていかなきゃいけない。つまり、とにかく目的別の団地化を図る必要があるということで、そういう決意をしまして、効率的な農業経営の実現をしよう。農業への思いが、それが実りまして、現在は観光資源の一つとして期待をかけている――日照時間の長い、交通の便のいい地点に観光農園団地をつくり、それからその隣接地には明野村農業振興公社による公社利活用団地というものをつくり、さらに今度、都会と農村との交流施設、それから農産物の開発施設、レストラン施設、県営のフラワーセンターと組み合わせた滞在型の交流団地をつくったり、それから自作の団地をつくったり、花卉、野菜の用途別の団地に成功して、豊かな個性ある村をつくったということで、非常に注目をされているわけでございますけれども、私は本市も時代の変化に対応したこのような個性ある農村づくりを考えていくべきだと思いますけれども、この点の御所見をお伺いしたいと思っております。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） どのようなものをやるかというようなことは抜きにいたしまして、今議員の御質問にありましたように、やはりよその地域とは違うという――差別といいますか、個性ある、そういう村づくりといいますか、そういうようなものを今後検討していく価値は十分にある、このように認識しております。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番(植木 馨君) なぜ私がこういうことを言うかという、今豊房地区が県営事業としてのほ場整備事業をやろうということですが、うちはもう田んぼをつくらないから、そんなものは要らないやとか、やる必要はないやとか、いろんなことで、市の職員の皆さん方が進めていくに、それにブレーキがかかって、苦勞なさって、なかなか進展が見られない。でも、こういうやはり — 今言う明野村のように、構造改善事業に合わせてこういう団地化を図っていくということもこれからやっぱり市として考えていかなきゃいけない。

それから次に、農業公社をつくる考えはないと言いましたけれども、これは明野村にしても、この間私が行ってきた鹿沼の農業公社にしても、やはりこれからの時代を見据えて、市長が先頭に立ってそういうものをやっていかなかったらいけない、今手を打たなかったらいけないということで、とにかく市長の手腕、そういうものがあるわけです。

簡単に申しますと、鹿沼の場合は、市長が訪中したそうです。そのとき、中国の人民公社の農政について、それを持ち帰った。これを置きかえたわけです。中国は、土地は国のものです。日本は農家のものです。それで、それを生産するのは、耕してやるのはだれかということ、中国の場合は農民です。じゃ、日本はこれを公社にやらせようということで発想して、それで産業経済部へと号令を発して、こういう政策をやるんだから、おまえたちはそれに対する企画をしろということで始まったのが鹿沼の今度の公社設立に至った経緯でございますけれども、農家としましては、公社がみんなやってくれますから、だから自分が今までつくった基幹作物は、それに対して増反をして収入増大を図る、また園芸をやっている人はそれをふやしてやる、そういうふうにして、サラリーマンはサラリーマン、それから職人さんは職人さん一筋でとにかくいく、それで農家の総体的な要するに経済の潤いをしようという、そういう考えでやってきた。だから、鹿沼の場合は、米を生産し、販売し、それで出荷する。それから、金の精算も、経費を全部精算して、残ったのは鹿沼の要するに農家へと、1反幾らでもって全部口座へと振り込む、こういうシステムをとって — これは全国的に例を見ないとにかくまちづくりをしたわけで、私、実を言うと、2月20日の日、単身で勉強に行ってきたわけです。これは何としても — これから館山市としても真剣にこれを受けとめて、これから検討して、公社設立に向かってひとつやっていっていただきたい。

これは現在、イチゴ組合をとにかくつくった。創設者、それから役員がもう行き詰まっちゃっている。公社をつくってもらえば、その運営の仕方によっては何とか切り開く道もできる、また拡大もできるということを言っているけれども、今はもう先細りで、将来できなくなっちゃうという、そういう非常に危惧されている状態である。今イチゴ組合の皆さんがそういう公社をつくってくれと言っているんです、私たちに。だから、私はそれには勉強に行かなきゃいけないということで鹿沼まで行ってきたわけですから、そのくらい市も真剣になって、これから館山市の農

政をどう持っていくかということを考えて、それでやっぱり勉強に行って、これからの農政を、しっかりしたものを築いていただきたい。その点お考えがあったらお聞かせ願います。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 現在は、昨年も植木議員さんにお答えいたしましたんですが、いわゆる自立経営というようなものを主眼にして、国、県、それに合わせまして市の方もそういう施策を展開しているわけでございます。ただ、現実的に、今お話がございました鹿沼とか、そういうところで実際に実践されているというようなことは、これは私どもも参考になる点でございます。そういうふうにしなきゃいけない事態になる可能性というのはゼロではないわけでございますので、その辺は十分視点に入れて今後いろいろ勉強をさせていただきたい、このように思っております。

以上です。

◎12番（植木 馨君） ありがとうございます。またひとつ頑張ってください。

◎議長（山中金治郎君） 以上で12番議員植木 馨さんの質問を終わります。

暫時休憩をいたします。

午後2時35分 休憩

午後2時51分 再開

◎議長（山中金治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 既に通告をいたしました7点についてお尋ねをいたします。

第1点は、世帯当たり30万円もの大增税と、市民生活への深刻な悪影響についてであります。新年度政府予算案では、消費税を3%から5%に増税することで5兆円、特別減税の廃止で2兆円、医療改悪による国民の負担増2兆円で、合計9兆円の国民負担増となっていますが、その規模は、史上最悪と言われた鈴木内閣の1兆6,500億円の大増税をはるかにしのぎ、実にその5.5倍もの未曾有の大負担を国民に押しつけるものであります。この9兆円の負担増というのは本当に大変なことで、国民1人当たり7万5,000円、4人家族で1世帯当たり30万円相当の負担増となり、市民生活に深刻な悪影響が心配されるところであります。

ところが、こうした事態を前に、市長の新年度施政方針では、市民生活の現況への認識に全く触れないどころか、「最近の我が国経済は、そのテンポは穏やかであるものの、個人消費や企業の設備投資などの民間需要を中心とした景気回復への基盤が整いつつある状況となっております」等と、あたかも景気回復が進んでいるかのような全く的外れの認識に立っています。不景気のどん底の真ただ中で、失業がふえ、給料も上がらず、商店では売り上げが落ち込んでいる。こん

な現況の中であえいでいる市民を前に、一体市長はどこに景気回復の基盤が見えると言うのか。政府の経済白書でも、驚くべき例外的な低成長と指摘している深刻な不況であります。公的な場での無責任な放言は慎んでいただきたいと思います。一体市長は市民生活の現況についてどのように認識しているのか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、市民の安全と健康、福祉を保持することは、地方自治法でうたわれた地方自治行政の基本原則であります。9兆円もの国民負担増の政策が強行されるもとで、不況は増税不況とも言うべき様相のもとに深刻化し、市民生活がますます厳しい事態に追い詰められることになるのは火を見るよりも明らかなことであります。この中で、どのように市民生活を守るために市政がその役割を果たせるのかが問われているのであります。

ところが、新年度市予算では、さらに市自身による国保税増税と水道料金など公共料金値上げ等を進めるとしています。市自体のこうした増税と料金値上げがさらに市民生活に深刻な悪影響を及ぼすのは明らかであります。果たして行政の論理だけでこうした増税や値上げが進められてよいものでありましょくか。これらの増税、値上げの市民生活への影響をどう認識しているのかをお尋ねいたします。

第2点、水道料金の大幅値上げについてお尋ねをいたします。市営水道料金を約30%と大幅に値上げすることとありますが、市長は平成5年12月市議会で私の質問に答え、最終的に水道料金は県下同一であるべきだ、この認識を持って、17市町村が歩調をそろえ、県にお願いしていると言ってきましたが、その結末がこの30%値上げということでありましょくか。これでは、県に裏切られたので、結局市民には料金値上げに甘んじてくれということになるが、そういうことでありますか。

南房総広域水道からの高い受水費と、第3次水道拡張事業による減価償却費や企業債利子の増大が料金値上げの理由とされていますが、県の指導でつくられた、過大な需要水量を見込んだ南房総広域水道の過大な設備投資のためのコストまで市民が料金として負担する理由はないと思うのでありますが、水道料金値上げの理由について御説明をいただきたいと思います。

また、過大な供給水量に対して、実際の需要は、リゾートブームが去り、見込みを大幅に下回ることになると思いますが、今後の水需要の見通しについてどのように考えていますか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、平成5年12月の市議会では、工事費の見込みが200億円と大幅に増額するという問題を前にして、この事業が17市町村という広域にわたる事業であることから、地方自治法の規定を論拠にいたしまして南房総広域水道事業の県営化を提案いたしました。当時市長の御答弁では、県に対し特別の財政援助をお願いしていくということで、県営化自体についてはお答えになりませんでした。

既に、一部通水とはいえ、基本的にこの事業は一応の完了をし、水が送られるようになってまいりました。しかし、この広域水道事業は、もともと県が抱えていた余剰水を南房総地域の水源として押しつけるということからつくられた計画で、必要以上に過大な水量を送水することを前提にして、各市町村の必要水量が割り当てられたものであります。その結果、計画時の見込みと実際との間に大きな開きが生じ、それがこの広域水道の深刻な財政負担になりかねません。

現在知事選挙が戦われているところでありますが、私どもの推薦した河野 泉候補は南房総広域水道事業の県営化を目指すという政策を打ち出しましたが、今後の財政負担問題を考えるとき、現時点において改めてこの事業を県営化すべきだと思うのでありますが、いかがお考えになりますか。

第3点、国民健康保険税の増税についてお尋ねをいたします。国保税については、これまで、大変高くとても負担し切れないと、市民からたびたび意見を聞くことがありました。他の健康保険の保険料に比べても、館山市の国保税は約2倍以上になるのではないかと、さまざまの試算もし、議論してきたところであります。国保税が大変高くなったのは、中曽根内閣の時代に行われた国の負担割合を少なくする制度改悪以降特にひどくなったことでありますが、館山市の場合はさらに、高齢化の進行で、いわゆる老人加入率の上限問題も抱え、本来他の保険全体で負担するはずのものが国保で負担せざるを得なくなっているために、より重い負担となっているわけであります。しかも、この傾向は今後ますますひどくなっていきます。

新年度当初予算対比で13%もの増税となっているわけですが、とても負担し切れません。国保加入市民の負担軽減のために、一般会計からの助成をふやすべきと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。特に、本来国保加入者の負担にすべきでない老人加入率上限を超えた負担増まで国保税に転嫁するのは認められません。

第4点、消費税税率の引き上げに伴う公共料金の転嫁についてお尋ねをいたします。4月から消費税が3%から5%に増税されようとしています。市の各種料金についても、今回消費税引き上げを理由とした各種使用料の値上げが提案されました。例えば公民館使用料など、消費税5%分だといって料金を徴収しても、その分についての消費税を市は納付いたしません。市は消費税の納付義務はないからであります。にもかかわらず、なぜ市は率先して消費税5%分だとして使用料金等の値上げをするのでありましょうか。市は消費税の納付義務はないと思うのでありますが、消費税増税に伴う公共料金引き上げの理由は何か、御説明をいただきたいと思います。

また、これら使用料金の値上げに伴う市の増収分は幾らになりますか。

さらに、自治省は自治体の新年度予算編成に関しての内簡で消費税分の値上げを指導していますが、自治権の侵害とも言うべきものであります。実際、県内他市の状況についてお調べになっているものと思いますので、その状況についてもあわせてお知らせいただきたいと思います。

次に、第5点、N T T株購入不正事件と住民訴訟についてお尋ねをいたします。この問題について市の主張は、元収入役らの賠償責任は免除条例によって既に消滅しているので、賠償請求はできないとのことでありました。しかし、こんなことではとても納得できるものではありません。そもそも、この免除条例は犯罪行為には適用されません。株購入やその保有が犯罪行為に当たれば、免除にはならないのであります。株購入やその保有が犯罪に当たるのかどうかは、最終的には裁判の場で決着されるべき問題であります。市長は裁判官ではありません。そうやすやすと賠償請求はできないと結論すべきではなかったのであります。裁判長の司法判断にゆだねるために、市長みずから元収入役を相手取って損害賠償を求め、提訴も辞さずとの慎重さが当然求められるべきでありました。

元収入役らとともに、市長個人を被告とした住民訴訟が起こされましたが、これは、元収入役の賠償責任は消滅したというあなたの判断自体が違法だとして、そのために市に損害を与えた責任を、市長、あなた個人の責任として問題にされたのであります。いずれにしても、争点になるべきポイントは免除条例による賠償責任消滅の是非ということになると思いますが、この訴訟に市長は本来賠償を請求する側として立つべきだったのであります。それをしなかったがために、賠償せよと訴えられる被告という立場で、しかも市長としてではなく、一個人として立つことになりました。あなたの敗訴ということは、市長としての職責を果たさなかったということになると思うのであります。裁判はどのようなふうになるのか、この訴訟の結果についてどのように考えておりますか。

次に、市は川上前収入役を虚偽公文書作成罪で告発しました。毎月つくられる金融機関別預金残高表でN T T株の保有を現先と虚偽記載していたというものであります。川上前収入役の虚偽記載は前任者のやり方を踏襲したものであります。市は前任者の渡辺あるいは山田の2人の元収入役を告発しませんでした。毎月の金融機関別預金残高表は、昭和62年11月以来、すなわち山田、渡辺の2人の元収入役も虚偽公文書を作成していたということになると思うのであります。どのように認識をしておりますか。

次に、第6点、議員の海外視察の中止についてお尋ねをいたします。2月22日付の房日新聞では、物見遊山的な行政視察のあり方が問われている中で、新年度予算案では従前どおり、行政視察の行き先も決まらないのに予算を計上しているとして、初めに予算ありきの手法と厳しく批判をしておりましたが、当然のことだと思います。

私は、議員の海外視察を一般的に否定するものではありません。これだけ国際化の進んだ時代となったのでありますから、その必要も出てくることはあり得ることだと思います。しかしながら、海外視察は特定の個人に70万円余の多額の経費を支出するものであるもので、それだけの経費があれば、議会広報の充実だとか調査活動費だとか、もっと議会本来の活動で使うべきではない



かなどの点も含めて、その実施については十分な検討が必要だと思います。

海外視察の実施に当たっては、最小限次の３点について明らかにすべきだと思うのであります。まず、実施の目的であります、見聞を広げるなどの抽象的なものでは、物見遊山の観光と変わるところがなく、公費による視察とは認められません。実施の目的が館山市政にとって実際に役に立つものであるということが必要だと思います。次に、その目的を達成する上で、視察以外に効率的な方法がないのかどうか、視察しなければ実際わからないことなのかどうかなどという方法論における問題点での検討であります。第３には、視察目的に沿って効率的に公費が使われたことをだれにでもよくわかるように、視察に関する報告書の提出を義務づけ、この報告書によって、だれでもその結果を生かすことができるようにすることです。

昨年も議員による海外視察が行われ、これに対し厳しい批判が寄せられたとのことですが、館山市政にとって本当に必要なことならば、非難されるべきではありません。問題は、本当に必要性があったのかどうかという点であります。私は、これまでの議員による海外視察が市行政に大変役に立ってきたとは思えません。新年度予算案では議員の海外視察が予算計上されているわけですが、その必要性について市長はどのように認識しているのか、御説明をいただきたいと思います。

第７点、戦争遺跡の文化財の指定についてお尋ねをいたします。昨年３月市議会で、館山市内には大変多くの戦争にかかわる遺跡が残されているとともに、文化庁の史跡指定基準が改定され、第２次世界大戦ころまでの戦跡等が追加されたことをお示しし、戦争史跡を市の文化財に指定することを提案しましたが、教育長は、市内にたくさんの戦争遺跡があることを確認している、今後検討するということでありました。質問のときから１年がたちました。どのように検討したのでしょうか。

次に、戦後の処理業務として、旧軍の戦車を笠原の山すその洞窟にそのまま埋めてあったのを見たという当事者の有力な証言がございますが、もし事実が確認できれば、大変貴重な文化財ではないかと思われます。戦車はいわば鉄の塊でありますので、地中探知機のようなものでその有無を確認、調査することは比較的容易ではないのかと思います。関係機関の協力で十分可能なことではないかと思うのでありますが、調査を進めることについていかがお考えになれますか。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第１、消費税の改正等によります市民生活への影響についての御質問でございますが、これまで政府は、継続的な景気対策により、景気は緩やかな回復基調にあるとしてまいりました。

しかし、景気回復の足取りは極めて遅々たるものであるというのが市民の生活実感であろうと考えております。こうした中で消費税の改正等の負担増が予定されているわけですが、一方、現在の国、地方を通じました財政状況は、将来債務の増加など、危機的な状況にあると言っても過言ではないと思います。そのために、行財政改革によります経費の節減に不断的努力をするとともに、多様な行政需要に的確に対応していくための財源が必要であると認識しております。

次に、大きな第2、第1点目の水道料金についての御質問でございますが、水道料金につきましては、昭和60年度以来、経営努力を重ね、実質的な料金の改定を行わず、収支の均衡を図ってまいりましたが、このたび南房総広域水道企業団の通水開始により、長年の懸案でございました安定水源を確保することができました。しかし、受水費の発生、第3次拡張事業に伴う減価償却費及び企業債支払利息の増加によりまして、給水原価の上昇により改定しようとするものでございます。

第2点目の南房総広域水道事業の県営化についての御質問でございますが、南房総広域水道企業団は、安房、夷隅郡市の17市町村により平成2年8月に設立されまして、平成8年の10月によりやく一部通水を開始したところでございます。県営化については、大きな問題でございまして、御意見として承っておきたいと思っております。

大きな第3、国民健康保険税についての御質問でございますが、御案内のとおり、国民健康保険は特別会計でありまして、加入者負担が原則となっております。一般会計からの助成につきましては、昭和63年度から、一定の枠を定め、保険税軽減のために繰り入れを行っておりまして、これは今後も継続してまいりたいと考えております。

なお、国民健康保険制度の安定確保のため、医療保険制度の一元化や国庫負担の拡充強化等について、引き続き国へ要望してまいります。

大きな第4、消費税率の引き上げに伴います公共料金の転嫁についての御質問でございますが、地方公共団体の一般会計につきましては消費税の納付は発生しませんが、先ほど永井議員の御質問にもお答えしましたとおり、公平な負担という見地から、消費税は適正に転嫁することが必要であると考えております。

また、県内31市の状況でございますが、現在20市において転嫁を予定し、他市においては検討中であると聞いております。

さらに、転嫁によります増収は、今回提案しております平成9年度一般会計歳入予算で試算いたしますと、約140万円でございます。

次に、大きな第5、N T T株購入問題と住民訴訟についての第1点目、住民訴訟についての御質問でございますが、今後訴状をよく検討いたしますが、N T T株購入問題につきましては、法に従い、厳正に対処してきたところでございます。

第2点目、金融機関別預金残高総括表についての御質問でございますが、虚偽記載のある公文書であると認識しております。

次に、大きな第6、議員の海外視察についての御質問でございますが、議員の海外視察につきましては、国際化時代を迎え、海外の各都市の実情等を視察することにより視野を広め、議会活動を通じて市政振興に寄与することを目的に実施しているものと認識しております。

大きな第7、戦争遺跡の文化財の指定についての問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第7、戦争遺跡の文化財の指定についての第1点目、戦争遺跡に係る調査についての御質問でございますが、平成8年度、文化財保護法の一部改正がなされ、平成9年度、館山市文化財審議会において調査をすべく計画中でございます。

次に、第2点目、旧軍の戦車についての御質問でございますが、このことにつきましては、市民からも要望が出ているところであり、今後調査を進めていく上で参考とさせていただきます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 市長さんは今の市民の暮らしの現況について、政府の言っているように、景気は回復に向かっている、しかしながら市民の中ではどうもそういうことは遅々として感じられない、こういう認識だと。当たり前なんです。ところが、施政方針ではそんなことはちょっと触れていないです。景気回復が進んでいるという政府の言葉をそのままのみにする、それはやっぱり問題だと。やはり市民の代表として市長さんはあるわけですから、市民の心、これを第一に新年度の予算をつくるというふうにしていきたい。

私は、こういうところに出てきている問題というのは、実は市民の値上げ問題についての市の考え方に――市民の暮らしに心を寄せながら考えて予算をつくっていないということが逆に出てきたことではないかなと思います。そういう点で、今の質問の中でも――結局は大変な増税です。増税不況になろうかという、こういうことを経済界が深刻に懸念を始めているんです、今の状況は、この4月以降。そういう中で、市の論理といいますか、行政の論理だけで今この増税、値上げというようなことが安易に考えられてはいけないうんです。

そういう点から、市民への負担増、これをどうやって市の行政の立場からできるのか、そういう点からの検討が本当に大事なんじゃないかなと思うんですが、31市の中で転嫁をしたのが20市ですか、国の指導に沿ってというお話でしたけれども、まだ10市ぐらいはそうではなくて、ここ

は切り抜けようと。県もやりません。千葉県も今回転嫁をしません。そういう中で、料金の問題でも 140万です、今のお話でも。できない話ではないんです。要するにここにあるのは、市長さんの現在の市民生活に対する、この消費税増税に対する姿勢があるんじゃないかなと思うんですけれども、いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 基本的な考え方は神田議員と同じでございまして、景気回復の基調にあるとはいいながら、我々市民の生活実感としては、これは歩みが極めて遅いということでございまして、そういう面に立ちまして — しかしながら、館山市の財政事情、館山市のこれからの行政推進について、これは市民の皆さんに、大変ですけれども、平等に負担をしていただく。そして、我々の仕事は、行財政改革を推進しながら、住民の住みよい市政の確立、市民生活の環境整備、21世紀を目指しましての新しい都市づくりというものを着実に進めていくというのが仕事かと、こう考えるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 水道料金の問題についてお話を伺いますけれども、この南房総広域水道は、市長がたびたびこれまでも言っていたのは、県下同一料金でこの水道料金 — 生活の基盤になるものですから、これは北と南で高い安いがあっちゃおかしい、本来千葉県同一料金、あるいはそれに近い水準というか、そういうことであるべきだ、こういうふうにおっしゃられていたわけですが、実際現況では、現在の水道料金 — 去年ですか、県営水道が値上げをしたという中で、現在の館山市営水道と近い水準といいますか、ほぼ同じ水準の料金体系になっている。その意味では、県営水道並みに — 向こうが上げたからなったというのもおかしい話なんですけれども、現実にはなっているわけです。ところが、ここへきて30%の水道料金の値上げということになるわけです。これは市長さん、これまで県下同一だということを言っていたこの主張はどうなったんだと思うんですが、結局、市長はそう言ったけれども、知事さん、沼田さんにはそでにされた、こういうふうに理解せざるを得ないんですけれども、そういうことなんですか。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 水道問題につきましては、基本的にはこの南房総全般の — 特に館山としましては、危機的な、慢性的な渇水状況からどう逃れることができるかということでございます。私の住んでいます地域も水道が入っておりませんでした。こういう生活環境ではこれからの住民生活を全うできないということから、慢性的な水不足の解消というものを第一に掲げました。さらに、この水道料金につきましては、県下の均衡ある発展をという基本的な姿勢は変わっておりません。昨年の10月1日に水道が参りましたけれども、第一段階 — とにかく通水というのは成

功した。これから水道料金その他については慎重に構え、そして十分に検討していくというところでございます。一気にそこにはいかない。まず通水に成功した。しかも、まだ一部でございますから、間もなく ― 平成9年度中には全部通水になると思いますんで、安房、夷隅ですね、それから検討していくということでございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 一つの段階を過ぎたという認識だろうと思うんですが、一応通水という段階になって、とにかく今までは水を引っ張ってくるのが ― いろんなことがあるけれども、とにかくそれが一番だというお考えだったんだろうと思います。私はそのころから事業の県営化という話をいたしましたけれども、やはり改めて、この水が来ましたよ ― これからさらに全域的に拡張事業の問題等ありますけれども、基本的には大きな段階に入ったのではないかなと。

そこで、改めて ― これは平成12年に5万500トン、南房総広域水道、そのうち1万2,000トンが館山に割り当てですよ、こういう大きな計画であるわけです。しかし、この計画水量が算出されている根拠になっているものは、1人当たり1日700リッター水を使いますよとか、人口が9.9%ふえることになりますよとか、リゾート開発で館山市で1日4,000トン必要になりますよとか、そういう非常に現況とは違う、架空の前提のもとにこの必要水量が算出されたんじゃないでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 水量につきましては、おっしゃるとおりの水量 ― これは1日最大でのお話でございまして、実際平均的にはもっと少ない数字で、例えば館山市が平成12年度日最大で1万2,320トン、しかし平均では12年度7,528トン、全体的にも ― 負荷率と申しまして、一番使うときと年平均との関係でこのようになっています。

それと、先ほど市長が答弁したので申しわけございませんが、安房、夷隅全部の地域の通水開始が12年度でございます。来年度は御宿町、あと白浜町と大多喜町がそれ以後になります。ということで、確かに計画当時と現在の各受水団体の必要水量は、事業体によって多少の差はありますが、全体的には現時点ではそれほど ― 将来大きな開発あるいは水を必要とするものがなければ、当時に比べると少ないというのが実情でございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 量が見込みと相当違ってくることは、これはもう避けられないんです。それは私そう思っているんです。しかし、それについての責任をだれがどうとるのかという問題なんです。だから、これは過大な設備を、これを ― いわば県主導でもともと話が始まりましたから、そこを考えないといけないことだと。県の責任を明らかにさせながら県営事業化というも

のを進めていかないと、これは今後大変なやっぱり財政負担になるんじゃないかな、そういう懸念を持つわけです。

それで、幸いと言ってはあれなんです、ここへきて館山は大変な渇水です。これは、その渇水のために — ことしも大変な渇水だと言いながらも、南房総広域水道が来ているから断水騒ぎにはならない、こういうことで、よかったなというふうに、率直にそれは思います。しかし、この17市町村の中で最もやはり水不足が深刻だったのは館山であり、あるいは富浦、ここです。そういう中で、17市町村の中で、この南房総はすっかり館山のためにやられたと。結局は、我々はそんなに必要ないんだけど、おつき合いで乗ったけれども、本当に必要なのは館山だけで、我々はリゾートのブームが去ってしまったら、余り水だけ押しつけられてたまったものじゃない、こういうふうに館山が袋だたきになるかもしれません。私はそれも心配しているんです。

ですから、この全体のリーダーシップ — 県営化の事業という問題について、やはり県の責任という議論を正面からやらないといけないんじゃないかな、そういう段階に来ているんじゃないかなということで、先ほど御意見として伺うということでありましたけれども、十分今後検討していただきたいなと思います。

それから、国民健康保険税のことですけれども、63年度から一般会計からの繰り入れを — 不納欠損あるいは免除の額に対して一般会計から繰り入れをしますよという館山ルールがつくられたわけです。その後、ここへきて深刻な問題になりつつあるのが — 全体の制度改革との兼ね合いもありますが、さしあたって今年度、いわゆる老人加入率の上限を超えている財政負担、これは本来国保加入者が負担するべきものではないです。高齢化が進んでしまったと。高齢化が進んだから、老人医療は全部の保険全体で面倒を見ましょう、国も金を出しますよ、県も出しますよ、市も出しますよということで制度があったわけです。ところが、予定よりもずっと老齢化率が進んでいるところは、予定を超えた老人加入率で出てくる財政負担については、その国保の加入者が負担しなければならないなんていうことでは、これはもうペテンです。これについてはやはり — これは制度全体の問題ではあるんですが、全体として大きな議論になっていますけれども、緊急的にこれは館山市としても — これに対しては、少なくとも国保税で、皆さんの増税でそれを負担するという道だけは避けなきゃならん。そのためには、やはり一般会計からの緊急のこの部分についての手当てが必要ではないかなと思うんですけれども、いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 平成9年度の予定では老人加入率上限25%ということで、平成9年度予算もその内容で積算してございますけれども、この老人加入率の上限撤廃 — ますます高齢化が進んでいく中で、今後とも早急に撤廃するよう国、県に働きかけてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） それは働きかけているんです。もう全国市議会でもどこでもやっているんです。ところが、現実に来年度は、新年度ですね、これはもう上限超えちゃっているんです。出さないと言っているんです。だからどうするんですかと。私らは運動しているから堪忍してくれよ、皆さんその間泣いてくれよ、こういうことなんですか。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 先ほどの市長の答弁の中で、一定の枠の範囲内で繰り入れると。保険税の軽減のために繰り入れているわけですがけれども、この金額、いわゆる25%の上限の影響額、約1,559万になりますけれども、この負担はどうするか、いろいろ議論はあろうかと思えますけれども、今の段階では、受益者負担の原則から、館山市のルールで一般会計から繰り入れていこうという考え方に立っております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 一般会計からの繰り入れをするんですね。今すると言ったからびっくりしたんですけれども、じゃよろしくをお願いします。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） この25%の上限の枠の影響については、これはあくまでも国、県に働きかけてまいりたい。現在の段階では、先ほどの市長の答弁の中の一定の枠の、ルールの範囲内で負担をするということです。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） よく聞かないとわからないんですけれども、そうすると、現在その25%を超える——26.何%ですか、その超えている部分については、じゃ何で国民健康保険の加入者が受益者だといって負担しなきゃいけないのか。受益者じゃないですよ、ちっとも。何で受益者なんですか。余計なことを言わないでください。とんでもない話です。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 繰り返しになりますけれども、この制度運用の健全のために、今後国、県と足並みをそろえて運営してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 億というお話をしているわけじゃないんで、これはぜひ今後——6月のことになりますけれども、ひとつまた改めて議論をさせていただきたいと思います。

次に、N T T株の問題 — その前に消費税の問題がありましたけれども、これは県内他市との関係でも、実施していないところもあるし、現実に 140万円というふうなお話ですから、ぜひこれは — 今回条例がたくさん出ていますけれども、とてもこんな条例を — 消費税転嫁は認められないということを言っておきたいと思います。

次に、N T Tの問題ですけれども、私は端的に申し上げまして、市長さん個人が被告になったというこの裁判は、ちょっとおかしいな、本来の筋ではないところに行ってしまうのかなという懸念を持つわけです。それはやっぱり市長さんがきっぱりとこの問題について、訴訟も辞さずという立場で元収入役との間に対峙しなかった、ここに問題があるんです。やはり裁判の場で裁判長の判断という中で決着が図られたということであるならば、賠償責任が消滅という市長のこうした主張も — あなたが言うんではなくて、裁判長がそういうふうに認定をするならば、これはやむを得ないことだろうと思うんです。そこなんです。市長さんがきっぱりとやはり責任追及する立場に立っていないからこのようなことになったんです。今からでもこの問題については遅くはない。きっぱりとやはり責任を追及するんだ、こういう立場に立ってお考えいただけませんか。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） この問題につきましては、現在司直の手に任してございますので、その結果を待ちたい、こう考えています。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 司直の手と言いますけれども、これは私は刑事上の問題を言っているのではなくて、市の持っている民事上の賠償請求権の問題を言っているんですから、これは司直に任せてもいけないんです。自分でやっぱりやらないことには絶対いけないんです。ですから言っているんで — 端的に言えば、元収入役を相手取って賠償請求をする、賠償命令を出す。そうすれば、相手方から不服申し立てがされるでしょう。裁判になります、そうすれば。そして、その中で裁判長が、賠償責任はもう消滅しているから館山市の負けと言え、これは負けです。けれども、裁判長が、そうじゃない、これは館山市の言い分がそのとおりだとなれば、勝ちです。そういう問題なんです。リングに上がらないで、司直の手に任せてというわけにはいけないんです、これは。いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） N T Tの問題の処理につきましては、現在まで法律に基づいて行ってきたわけでございます。責任を明らかにするために監査請求をいたしまして、監査結果を得て、その結果といたしまして賠償責任が問えないという結論になったわけでございます。市といたしましては、免除条例の適用を外す犯罪があったという、犯罪を構成する要件があったということが合理的に明らかでありますれば、ただいま神田議員のおっしゃったような方法がとり得たとは



思いますけれども、そのような状況になかったということから賠償命令を出さなかったわけでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 要するに、犯罪に該当しているのかどうなのかという問題です。この問題をめぐっては、背任罪になるのではないかとか、あるいは資金運用表が虚偽公文書に当たるのではないかとか、これまで議論してまいりました。みんな灰色じゃないですか。だから、第三者のいった裁判の場で裁判長の判定を待とうということを言っているんです。あなたがこれは白ですと断定できるんですか。断定できないでしょうということを言っているんです、裁判長じゃないんだから。いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 監査委員の監査結果に基づいて判断いたしました結果に基づいて対応しているところでございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 監査委員がどのような監査結果を出したとしても、賠償請求権があるかないか、これは最終的には裁判で決めるべき問題です。監査委員の監査結果が間違っているかもしれないんです。監査委員の監査結果が正しいか間違っているか自体、最終的には裁判所で裁判長が決めるというのが我々が暮らしている社会の常識なんじゃないですか。それが法の支配ということなんじゃないですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 公式な機関と申しますとちょっとあれなんです、地方公共団体としての館山市は、明確に法律に基づいた行動以外の行動をとるわけにはまいりません。したがって、ただいまのお話で、灰色であったかどうかはまた別の話になりますけれども、そのような状況の中で裁判への提訴というような行動をとり得なかったということは御理解いただきたい、そういうふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 新しい別の視点からの議論でひとつお尋ねしたいと思うんですけれども、昭和62年11月の時点で株保有の事実を隠ぺいするためにつくった虚偽公文書である、預金残高明細表は昭和62年11月の時点で既にこれが虚偽公文書である、こういうことですよ。株の保有——その時点で館山市が保有しているNTT株、これは館山市の所有物であることに間違いありませんね。いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 館山市の所有物でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） そうすると、館山市が所有する有価証券です。これを隠し持っていたわけです、事実として。この有価証券を隠し持っていたことによって、その間に株価が下落した、こういうことは——現金の亡失の問題ではないです。これは有価証券の損傷ということになるんじゃないありませんか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 株を購入したことによって生じた市の損害についての基本的な考え方でございますが、従前から申し上げておりますように、株を購入したことによって、その時点で現金が失われた、亡失したというふうな自治法上の考え方に基づいてとらえているところでございます。したがって、保有していることによって、時間の経過とともに、株価の値下がりとともに少しずつ損失が拡大していったという考え方は、自治法上はとり得ません。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） それは現金の亡失——現金の話をしているんです。しかし、昭和62年の11月末現在で館山市が有価証券を持っていたことは間違いありません。NTT株は有価証券です。この有価証券の保有をすることによって、その価値がどんどん下落していった事実は間違いありません。違いますか。これは現金の亡失による損害賠償のことを言っているんじゃないんです。館山市が所有している有価証券の保有による損傷ということを言っているんです。現金の亡失じゃないです。この有価証券の保有による、損傷によるところの賠償請求、損害の発生、これは競合的に、並立的にあるんです。そう思いませんか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 地方自治法第243条の2第9項の規定によりますと、ただいまおっしゃっているようないわば民法的な取り扱いにつきましては、この自治法の規定が働く限り排除されるということになっております。したがって、ただいまの神田議員おっしゃる並立的に成立するということではございません。自治法があくまでも優先するということでございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） それは、あなたは亡失をしたと、株が。そして、去年の8月に株を売ったんです。売った価格によってそれは控除したんです。そうでしょう、損害額は。そういうふうになるわけです。ところが、この控除額、それが下落したんです、そういう言い方をすれば。そのために発生しているんです、その間に損害が。いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 今の控除額というのがちょっと理解し得なかったわけですが。済みませんが……。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 株を買った時点で現金は亡失した。しかし、実際の損害の算定に当たっては、去年の8月15日ですか、株を売却しました。そして、売却価格によって控除したわけです、損害を。この売却価格がゼロであれば、全額亡失です。その株の売却価格が実は購入時点より高くなっていれば、現実には売却しても利息分だけしか出なかったと、損害はなるわけです。そういうことじゃないですか。そういうことを言っているんです。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ということになるかと思います。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） したがって、私は市長が裁判をどんどん進めていくという立場から、いろいろな論拠を考えながら、市が元収入役を相手取ってどういうふうにしたら法的に争えるのか、その論拠を每晚考えているわけです。そういう中でいろんなことを考えてきたわけです。要するに、そういう地方自治法に基づく職員の賠償責任については、現金の亡失だけではなく、有価証券の損傷による場合、これも——地方自治法第243条の2ですか、職員の賠償責任の中に述べられているわけです。そうすると、それを根拠にして賠償請求をすることは、これは十分可能なことではないかと思うんですけれども、それは存立し得ない、そういう請求権はもともとあり得ないんだ、そういうふうにお考えになるんですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 今回の株購入の件に関しましては、繰り返しになりますが、株を購入いたしました時点で現金が亡失されたという考え方に立たざるを得ないというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） それはわかるんです。現金の亡失ということによって、賠償請求権がありますよ。しかし、これは免除条例の適用によってありませんよ。しかし、株の損傷による賠償請求権というものが同時的、並立的、競合的に成立する。しかし、それが成立しても、現金の亡失による損害賠償の中に包摂されちゃっているから問題にはならなかったけれども、もともとそれがなくなるとすれば、この競合的に成立する損害賠償請求権を行使することは十分可能んじゃないですか。そういうことを言っているんですけれども、その可能性は全くないというふうにお考えになっているんですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 株の購入が現金の亡失とイコールという考え方に立っておりますので、ただいまお話しのように、成立し得ないものというふうに考えております。

◎20番（神田守隆君） 終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で20番議員神田守隆さんの質問を終わります。

次に、3番議員三上英男さん。御登壇願います。

（3番議員三上英男君登壇）

◎3番（三上英男君） 今や残土は雪崩のごとく押し寄せています。市民団体を初め、多くの市民がとどまるところを知らない残土搬入を危機感を持って見守っているのです。そして、館山市が残土の処分場になるのは御免だと叫んでいるのです。

市は、このような状況を受けてか、条例の改正案を上程しました。期待していたのです、歯ごめになる決定的な何かが盛り込まれていることを。しかし、多少強化したものにすぎませんでした。市民の気持ちがこの改正案に反映されていないことを大変残念に思います。市は、条例改正に当たって、どのようなことを念頭に置いて行ったのか、お聞きいたします。ただ単に安全な土砂で安全な埋め立てをしてくださいということだけだったのでしょうか。意図するところをお伺いいたします。

また、今度の改正案では、土砂の安全性をより厳しく求めているようですが、それとは裏腹に、しゅんせつ土砂を残土の定義づけの中で明文化したことに疑問を持つものです。一般的にしゅんせつ土砂には清浄なイメージはありません。港湾や工場地帯の河川からは重金属を初めとする有害物質が検出されることがあるのです。これは搬入禁止とすべきであると思いますが、いかがでしょうか。今までは混入されていたので、今後は分けてチェックするともいうのでしょうか。残土の中にしゅんせつ土砂を入れた理由をお伺いいたします。

次に、ごみ行政についてです。ごみに関連しまして、焼却炉からのダイオキシンについてお伺いいたします。かねてから焼却炉からダイオキシンが出ているという指摘はあったのでありますが、猛毒ゆえに、反響を恐れて、なかなかはっきりしたことを言わなかったのです。しかし、このまま放置すれば、人体に及ぼす影響は大であると、厚生省も公表に踏み切ったものであらうと思います。今回発表になったものは基準値の80ナノグラムを超えた箇所だけでしたが、かなり危険な焼却炉もあったように見受けております。館山市の焼却炉の数値はいかがでしょうか、お伺いいたします。

次に、ごみの減量ですが、このようにごみを燃やせばダイオキシンが出る。やはりごみを減らす努力をしなければならないわけでありまして。ごみ減らしの切り札であったリサイクルも、価格の低迷等々で行き詰まっております。行政として、ごみの減量の具体的施策をお伺いいたします。

次に、容器リサイクル法の適用であります。4月から紙パックの収集を始めるようでありま

すが、この容器リサイクル法は、紙パックのみでは不十分であると思います。紙パックは、御存じのように良質の紙でありますので、当然とは思いますが、しかしそればかりでなく、今言われているペットボトルもすぐれた資源であります。ペットボトルを対象にしなかった理由をお伺いいたします。

次に、NTT問題であります。今回のこの事件の最大の争点は、損害賠償請求ができるかできないかであります。すなわち、株購入と保管とを一連のものとするかどうかであります。1月30日、私たち総務委員会は弁護士を講師に招き勉強会を行いました。その中で、この事件は元収入役3人による共謀事件であると考えてよいということがありました。このことから、事件発生は昨年4月であり、免除条例の適用はないわけであり、当然元収入役3人に対しては損害賠償請求が出せるわけであり、市長はこの点についてどうお考えでしょうか。

この1年間、市長は悔しい思いをしてきたでしょうが、悔しいことは市民も同じであります。市長はこの市民の怒りを真摯に受けとめ、問題解決に取り組んでいただきたいと思います。

以上、質問を終わります。お答えによりまして再質問をさせていただきます。

(何事か呼ぶ者あり)

◎3番(三上英男君) 事前協議のことについて、事前協議が今度追加になったわけですが、これにつきまして——今度、森林法と農地法、これらを含んでの許可ということになりますので、事前協議のメンバーとか方法というのは、当然今までの環境保全課のみで対応していたようなわけにはいかないわけであり、そういうわけで、市長はこれから残土埋め立て許可を出すに当たって、どのような協議会を持ってこれに当たるのか。また、他の法律によって許可が出ているものに対して、市長がそれを不許可にすることができるのであるかどうか、そういった点をお伺いしたいと思います。

途中でとちっちゃいまして、申しわけありませんでした。以上、終わります。

◎議長(山中金治郎君) 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの三上議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、館山市土砂等による土地の埋立て、盛土及びたい積行為の規制に関する条例を改正することについての第1点目、条例改正の目的はとの御質問でございますが、近年の残土を取り巻きます状況が条例制定当時とは大きく変化してきておりますので、森林法や農地法などの上位法によります許認可事業であっても、土砂等の質的な安全を確保するため、条例を一部改正しようとするものでございます。市外からの残土の持ち込みにつきましては、残土は廃棄物ではないので、現在の法令では量的規制をすることはできないものでございます。

次に、第2点目、残土の定義にしゅんせつ土砂を追加した理由はとの御質問でございますが、

しゅんせつ土砂につきましては、もともと現行条例では定義されております土砂等の中に含まれているものでございます。今回の改正は、残土とそれ以外の土砂とを区分しようとするものでございます。

第3点目の事前協議の方法とメンバー等についての御質問でございますが、事前協議は本申請に向けての協議、調整で、一定規模以上の事業について行おうとするものであり、関係機関並びに関係各課により実施していきたいと考えております。最後にお話のありました他の規制によるものは、今第1点目で申し上げたとおりでございます。

次の大きな第2の第1点目、館山市におきます焼却炉のダイオキシン濃度についての御質問でございますが、先ほど鈴木順子議員にお答えいたしましたとおり、排出濃度は8.75ナノグラムでございます。

次に、第2点目、ごみ減量に対します具体的施策についての御質問でございますが、これも鈴木順子議員にお答えいたしましたとおり、現在行っております再資源化、減量化を今後も引き続き推進してまいりたいと考えております。

第3点目の容器包装リサイクル法施行への対応についての御質問でございますが、この法律の施行に伴いまして、館山市といたしましては、平成9年4月から飲料用紙パックの収集を実施し、ごみの再資源化に努めてまいります。ペットボトルにつきましては、部長より答弁させていただきます。

次に、大きな第3、NTT株購入問題についての御質問でございますが、既に御説明してまいりましたように、昭和天皇の崩御に伴う職員の懲戒免除及び職員の賠償責任に基づく債務の免除に関する条例第3条の規定によりまして、元収入役の賠償責任は平成元年2月24日をもって既に消滅していたことから、損害賠償請求ができなかったものでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 補足答弁をさせていただきます。

まず、残土条例の件でございますが、この残土条例で不許可といいますが、その場合に他の法律、いわゆる上位法にもその不許可が及ぶかという御質問でございますが、この条例では土質の基準のみを適用するということでございますので、その結果によって法律の許可、不許可には影響はございません。

それから、次に容器包装リサイクル法の御質問の中でのペットボトルを外した理由ということでございますが、いわゆる収集いたしましたものが一定の量にまとまりますと、ある特定業者が回収するということでございますが、その辺もまだはっきりいたしておりませんし、それから収集のいわゆる技術的な部分――御承知のように空気を含んで膨らんでおりますので、どういう方法でこれを回収していくか。それから、いわゆるその引き取りが10トン、トラック1台程度とい

うことでございますので、そのストックヤード等の問題もございまして、しばらくこれは検討する必要があるということで、当面見送ったものでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） 今回の条例改正のねらいというのは規制を強化するということにあったかと思うんですが、確かに強化されていることには違いありませんが、量的な規制——これ以上本当は入ってきちゃ困るんだといった、そういった姿勢というか、こういうものがこの中からはさほど感じられないというか、これさえクリアしてしまえばかえって入れやすくなったんだというようにも受け取れるような改正案であるわけです。市としては、これは禁止できないんだと言っておるわけですが、規制を強化したんだという、この姿勢を示したところを挙げてみてください。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 規制を強化したということでございますけれども、今まであいまいであった点をはっきりさせたというようなこともあるわけでございます。今御質問にありましたように、要するに量的な規制は今回の条例ではないわけでございますので、端的に申し上げれば、今回の条例改正の内容がすべてクリアされれば、これは許可せざるを得ない、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） 事前協議という中にも多少そういう気持ちが入っていたんじゃないかと思うんです。というのは、今まで農地法で取り上げられていた埋め立てがすべて事前協議の中でも検討されるんだということで、今まで2本立てが1本になったというようなことになると思います。そうしたときに、市長は今まで——今部長の御答弁のように、クリアすれば入れざるを得ないんだというような、こういったことじゃ、政治的決断とか、そういったことにほど遠いんじゃないかと思います。やはりこれは市の将来にとってまずいというようなときには、クリアしたから入れるんだというんじゃなくて、断固政治的な決断を下すということが必要じゃないかと思います。この条例改正というのは、私は本来そういうところを望んでいたわけですが、どうでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 量的な規制ということにつきましても、これは従来、建設残土というのは廃棄物ではない、法的には規制できないというふうに議会等で御答弁申し上げているわけでございますが、今回の改正につきましても——既に12月議会等に条例改正等を提案された

市、町の状況等もお尋ねしたわけですが、量的規制——要するに、例えば県外のそういう建設残土を排除できるかどうか。これはできない。量的な規制につきましても、例えばそういう構造基準をきちんとクリアして、安全性が担保できるということであれば、その辺も難しい、そういう——法的にこれは規制できないという中で、少なくとも土壌基準によって土壌の安全性、生活環境の安全性というようなことを確保しよう、そういうことで、土壌基準につきましても、従前から許可基準の中にうたっていましたものを、今後規則を改正していくわけですが、その中で明文化しよう、このように考えておるわけですが、それから事前協議の制度を設けたということは、少なくとも余裕を持ってそういう業者の方とその与える影響等について事前に十分協議をして、さらにはその周辺の関係住民の方々と十分なそういう話し合いができるような——理解といいますか、そういうようなものが得られるように、そういう事項を今回の条例に制定した、盛った、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） そうしますと——事前協議の方へ行っちゃいますけれども、これはどういったメンバーとかをお考えになっておりますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 今後規則を詰めていく中でその辺はきちっと整理をしてまいりたいと考えておりますが、従前のように担当課だけで処理するんではございませんで、当然いろんな部分で役所の庁内でもかかわる課があるわけでございます。そういう担当課、それからさらには、今回はいわゆる他の法律での許可、認可に関する部分についても、土壌基準とはいえ、網をかけることになりますので、そういう関係機関の方たちにも入っていただくのが適當ではないかな、このように考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） メンバーの件につきましては、関係の課からということになるわけですね。

それで——前後して本当に何か——質問も下手ですけども、しゅんせつ土砂という——私は質問の中で余りきれいじゃないんじゃないかというように質問したわけですが、それに対してどういうふうにお考えでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） しゅんせつ土砂でございますが、これは従来の——現条例でございますが、土砂等の中にしゅんせつ土砂も含まれておったわけでございます。今回条例で、建



設によって派生する残土、いわゆる建設残土と、それからそれ以外の — 良質という言葉は適当かどうか分かりませんが — 土砂と区分した際に、やはりしゅんせつ土砂というものをはっきりと明記をした。現行条例の土砂等の中にもしゅんせつ土砂は入っていたということでございます。たまたま今回土砂の定義を分離したことによりましていわゆる明記した、こういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） 今のお答えでは、ちょっと一般的には納得しがたいところがあります。といいますのは、しゅんせつ土砂というのはいろいろあると思います。今まで何を恐れていたかという、しゅんせつ土砂が入ってくるのを恐れていたんじゃないですか。ヘドロみたいなものが、ヘドロが入っているから危ないんだというふうな、こういった観念はあったと思います。それを分けたということになりますと — これは規定の中に安全な土砂ということになっておりますから、安全であればしゅんせつ土砂だって何だって関係ないと言われるかもしれませんが、建設に伴って出る土砂というのと比べれば、しゅんせつ土砂は受け入れがたいと言わざるを得ないと思いますが、どうでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） しゅんせつ土砂につきましても、当然事前に — 計画をされた場合に、土質のいわゆる分析調書ですか、それをお出しいただくことになりますので、当然その中に有害物質が含まれているということであれば、これは拒否をする、要するに持ち込みは禁止する、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） 今回の改正案の規則の方、この方で、土壌については25項目、水質については23項目、これは一体どんな段階で調査して、また業者は提出するんですか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 土壌基準につきましては、当初の許可の申請をする際にその分析書をつけていただきますし、一定量以上の範囲に残土を埋め立てる場合には、それぞれの処分場の土砂をとって、それぞれ所定の項目の調査をしていただく。それから、水質につきましては、これも処分場の浸出水、排水をとっていただきまして、それで — 環境基準がございしますが、それに沿った分析をこれは業者負担でしていただく、そういうことでございます。また、それ以外に市の方でも土質、それから排水なり浸出水の水質検査も同じ項目を実施してまいります。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） 当然これはやらなきゃいけないことなんです、私はこれも再三お聞きした中で疑問に思うわけです。業者の側で検査したものが果たして信憑性があるかどうか。お金がかかるから業者にやらせてということ — お金がかかるからと言うと変ですけども、1件当たり何十万とかかる。これを表だけつければいいということでは、安全性は確保できないと思います。

また、市の方では定期的な検査というのは — 前には浸出水は4回とやってやっておりましたが、土壌検査もやはりその程度の頻度でしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） この検査は、業者の場合につきましては、これはやはり受益者でございます。事業を営む者でございますので、これは業者にいわゆる義務ということでもってお願いをするということでございます。

それから、回数等でございますけれども、土質につきましては、当初の申請の段階でまず御提出をいただく。それから、事業期間中は年2回分析検査を実施していただく。それから、浸出水の検査でございますけれども、事業期間中は4カ月に1回、事業完了後3年間は年1回実施をしていただく。このような方向で規則に明文化をしていく、こういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） 今まで検査のことにつきましては、業者からの検査票というのがついてきまして、それによって許可されておったわけですが、これも実際の問題として、一枚の紙で何十万という立米数のこれが許可になるという、この言ってみれば抜け道というようなことが心配になるわけですが、市の方は相手方の排出されている現地に行ってというようなあれはないんでしょうか。検査とか、サンプルの採取とか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 発生場所につきましては、事前に市の方で現場を確認をする考えであります。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 今回の条例改正については、我々残土を心配している者にとって、量的なものが全然規制がされないということがわかったわけでありましたが、そうしますと、あとは安全にということになるわけです。

それともう一つ、特例として1,000平方メートル未満は事前協議の対象にならないという、この点についてちょっと — どういうわけで1,000平方メートルになっているか、お伺いいたします。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 小規模なそういう埋め立て等につきましては、事前協議という手続を省略することによって — 負担の軽減と言う言葉は悪いかもしれませんが、いわゆる小規模のものまで事前協議は必要としないのではないかと、即許可申請ということで、その中で十分審査をできるのではないかと、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） 大体想像つきますが、この1,000平方メートルというのは農地の埋め立てに関してのことだとは思いますが。そうしますと、1反歩 — 昔のあれで1反歩ですよ。このくらいずつしか申請がないわけですよ。農家が埋め立てするのは、農家が申請者であって、やるのは業者。法律的には問題がないとは言えるものの、やっていることはやっぱり問題があると思うんです。ですから、1,000平方メートルに限定したということになりますと、ほぼこれはフリーパスだということになりかねないわけです。500平方メートルに統一するようなお考えはないでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 事前協議は、いわゆる建設残土による場合には、1,000平方メートル以上が事前協議の対象ですということでございまして、この残土条例の適用面積は500平方メートル以上ということでございます。したがって、500平方メートル以上1,000平方メートル未満のところに建設残土で埋め立て等の行為をする場合には、事前協議はいいわけですが、例えば土質の分析書だとか、そういうようなものはきちっとお出しいただく。それによって許可等の手続は進めていく。事業期間中のそういう土質検査ないしは水質検査等についても、これは実施をしていただく、こういうことでございます。決してフリーパスということにはならないと思います。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） そうしますと — どこかの改正に当たって — これは鋸南町でしたか、否決されましたけれども、それもやはり小規模な農家まで土質の検査を義務づけられちゃたまらないというような、そんなことから否決されたんじゃないかなと私は思ったんですが、農家が申請者で — やはり農家がこの土質検査をするということになるんですか、建前は。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 事業者というのは、その地権者だとか、それから事業を直接行う者。ですから、今回の場合、例えば農家で、農地転用ではなくて、一時転用というような形で

行うというような場合には、農家になる可能性がありますし、また実際にそれを埋め立てする事業者もなり得るということでございまして、私どもの方でどちらということではなくて、どちらかでやっていただく、こういうことになります。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） わかりました。残土条例の改正につきましては、これまでにしておきます。

それからあと、ごみ行政につきましては、ダイオキシンも8.75ナノグラムということで、了解しました。

それから、ごみの減量に対しても、再資源化を進めていくということで、当然のことだと思っておりますが、ただ、朝の鈴木順子議員の中で、プラスチック類の不完全燃焼がダイオキシンの発生に大きくかかわっているということで御答弁ありましたけれども、これから先、ダイオキシンを心配する余り、燃焼方法なんかにすごく神経を使うということが起きてきておるわけです。

私はそこで一つ発想を挙げて――燃やせるものはがんがん燃やして、発電でもしたらどうか。埼玉県のある自治体で、ペットボトルの資源化は難しいので、火力発電の燃料にしているということを聞きました。これは何にしても、エネルギーになってまた返ってくればリサイクルですから、必ずしも繊維にしなければならないということはないし、気を使い使い燃やしているんだっただらば、完全燃焼させて発電でもしたらというような考えもありますが、その点は。

それから、灰の溶融も年次計画の中に挙がっていると思いますが、その点の推進はどうなっておりますでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 御質問のいわゆる燃料化ということは、私どもとしてもできればというような部分が当然ございます。ただ、館山市がそれを燃料化しまして発電をするということになりますと、逆にごみの量が少な過ぎることになります。少なくとも24時間連続運転ができるような施設でございませんと、この発電設備はちょっと無理かと思えます。でき得れば、千葉県に1カ所あたりそういうものができまして、そういう固形化したものをそこで焼却して発電するというようなことならば可能だと思います。

それから、溶融化の件でございしますが、こちらにつきましても、現在県内でも我孫子市等で一応運用されておりますけれども、1日に発生する灰の量が――今いろいろメーカー等の話を伺いますと、館山市の場合ですと、やはり量的に不足して効率が悪い。したがって、県の方の廃棄物処理の検討委員会等があるわけですが、そういう面についてもやはり広域的に対応したらどうかというような、そういう議論がされているというふうに伺っております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） じゃ、今後また検討していただくことを望んで、その点については終わります。

最後のNTT問題についてであります。私の質問の中に共謀説というのがあるんですが、これはたまたまその講師にお呼びした弁護士の方がこういうふうにもとれる——断定したのか、その点はちょっと私も今の段階では——ここで言ってしまって、難しいことになってしまってもいけませんので、共謀ととれるということにしておきますが、そうであるならば——株の購入から保管して発覚までに至ったのは一連の事件であるということであります。そうしますと、一連の事件であるならば、免除条例は適用にならないということを私は述べたわけです。ですから、元収入役3人に対しては——川上さんは実質的な損害を与えていないということでありますが、2人の元収入役に対しては損害賠償請求ができるという判断になったわけですが、その点再度お答え願いたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 確かに議員おっしゃいますように、株の取得、それからその保有、発覚、それから処分、これは株の取得をめぐる一連の事件でございます。ただ、その中でどのようなことで元収入役3人の共謀関係が成立するのか、あるいはまた、共謀の成立の時点はいつであるのかというようなところがちょっと不明ではございますが、監査結果におきましては3人の共謀を確認しておりませんし、また市としてもその3人が共謀したということは確認されていないところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） 今総務部長のお答えの中に共謀の証拠がないということでしたけれども、監査報告を見ますと、至るところ——山田収入役、渡辺収入役あるいは川上収入役、すべて引き継ぎあるいは引き継ぎ以後、その件についていろいろ話し合っているということは監査報告の中に出ております。これは意思が通じておるということであって、そこからして共謀説であるという意見であります。総務部長は、監査報告書の中でいろいろ言っていることに対して、これはひとり言だというふうにお考えでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 確かにおっしゃいますように、それぞれの収入役につきましては、その株の取得の事実、あるいは株によって生じた損失については何とか埋め合わせするというような話し合いが持たれたということは、監査報告に見られるとおりでございます。しかしながら、相互にこの事実の確認とか、あるいは話し合いが持たれたことをもって共謀が成立すると

いうふうには考えられないものでございます。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） ですから、神田さんも質問されましたように、これは司直の手にゆだねて、一応損害賠償請求をするとして、司直の判断を仰ぐ、それによって条例が適用になるかならないか、これが市民の一番知りたがっているところです。確かにこれはもうだめだったというのであれば、それでいいじゃないですかとは言いませんが、やるだけはやったんだということになるわけです。そういう可能性を残しておきながら手を打たないということに対して、やはり市民は怒っておるというのが現状じゃないでしょうか。その点お願いします。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 確かにおっしゃいますように、市といたしまして、そのような手段をとって、裁判等で白黒がつけば、それが一番市民の皆さんにとってもわかりやすい方法ではあったかもしれませんが、先ほど申し上げましたように、市としての、地方公共団体としての立場から申しますと、こういうことがあったかもしれないという推定のもとに立ってそのような行動をとることができなかった。あくまでも法律に基づいてなし得ることをやってまいりました。したがって、この点を御理解いただきたい、そういうふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） とにかくこれで市民の皆さんがどういうことで判断するか、それによってまた次の進展があらうかと思っておりますので。

終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で3番議員三上英男さんの質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

#### 会議日程の変更

◎議長（山中金治郎君） この際、会議日程についてお諮りいたします。

明11日の会議日程は本日に引き続き行政一般質問となっておりますが、本日終了いたしましたので、明11日は休会といたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、明11日の会議日程は変更され、休会と決定いたしました。

散 会 午後4時33分

◎議長（山中金治郎君） 本日の会議はこれにて散会いたします。

なお、明11日は議案調査のため休会、次会は3月12日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際、申し上げます。一般議案、補正予算に対する質疑通告の締め切りは明3月11日正午、平成9年度各会計予算に対する質疑通告の締め切りは3月12日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問

